静岡大学地域創造学環

フィールドワーク総括報告集

～地域・学生・教員の9年間の軌跡～

目　　次

はじめに
Ⅰ. フィールドワークの概観 …… 1
Ⅱ. 各フィールドワークの実践
静岡市　清水港周辺地域 …… 14
静岡市　庵原地区 …… 16
静岡市　おまち …… 18
静岡市　浅間通り商店街 …… 20
焼津市　浜通り …… 22
浜松市　浜松文芸館 …… 24
浜松市　佐久間町 …… 26
田園空間博物館　南遠州とうもんの里 …… 28
御前崎市 …… 30
松崎町　商店街 …… 32
松崎町　観光と防災 …… 34
東伊豆町 …… 36
伊豆半島全域（ジオパーク） …… 38
伊豆半島ジオパーク（保全と防災） …… 40
多世代の居場所づくり …… 42
学内地域連携拠点 …… 44
静岡市　東静岡駅前 …… 46
静岡市　駒形通り四丁目商店街 …… 47
木下恵介記念館 …… 48
川名ひよんどり …… 49
県営団地 …… 50
フィールドワークに関わる制作物 …… 52
Ⅲ. フィールドワークと地域カウンターパートとの対話 …… 61
Ⅳ. 地域創造学環フィールドワークの教育効果と
地域―大学へのインパクト …… 71
Ⅴ. フィールドワーク総括フォーラム・パネルディスカッションの記録 …… 87
おわりに

はじめに

静岡大学長　日詰　一幸

静岡大学は、平成27年度に文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」に採択され、地域のみなさまと協働して課題解決に取り組むことのできる人材の育成等を進めてまいりました。そしてその取り組みの中核として、翌平成28年度に「地域創造学環」を設置いたしました。この地域創造学環では、教育カリキュラムの中心に県内各地でのフィールドワークを置き、学生が地域の皆様とともに各地域が抱える課題を見出し、解決に取り組むなど、現場での実践的な教育を展開してまいりました。その後７年が経過し、令和５年度に、地域創造学環の理念と実績を発展的に継承し、他の６学部の教育成果をも融合する新たな学部として、「グローバル共創科学部」を創設いたしました。これに伴い、地域創造学環での学生募集は停止し、昨年度をもって、学環のフィールドワークも一区切りを迎えることとなりました。

ただ、フィールドワークを中心とした地域のみなさまと連携した教育は、今後も本学の重要な教育の柱であることに変わりありません。グローバル共創科学部をはじめ、人文社会科学部や他学部において、今後も継続・発展させてまいりたいと思います。これまで本学・地域創造学環のフィールドワークに関わってくださった全ての皆様に感謝を申し上げますとともに、今後とも本学の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

静岡大学地域創造学環長　水谷　洋一

地域創造学環は、地域社会が抱える様々な課題に向き合い、解決策を模索し実行できる人財を育成することをめざして、平成28（2016）年４月にスタートした教育プログラムです。フィールドワークはこの地域創造学環のカリキュラムの「大黒柱」です。

地域創造学環のカリキュラムで１年次前期に重視されるのは、主に県内の各地域が抱える問題・課題を、それに取り組んでいらっしゃる自治体、各種団体、専門家、市民の方々の視点から学ぶことです。ファシリテーションやプレゼンテーションといった対話と協働の技法を学ぶことにも取り組みます。

そして、１年次後期からは、地域サステナビリティ（３分野)、アート＆マネジメント、スポーツプロモーションの３つのコースに分かれつつも、コースをまたいでチームをつくり、県内10ヶ所以上に分かれてフィールドワークに赴きます。フィールドワークは３年次末までの２年半続き、学生たちは各フィールドでその地域が抱える様々な問題・課題を肌で感じ、地域の人々と対話し、「どうにかしたい」という思いを共有していきます。

そうした中で、学生たちは自分なりのテーマを見つけ、各コースでのゼミ（地域創造演習）で専門的知識・技術を養いつつ調査や考察を進め、卒業論文・卒業制作に取り組んでいきます。

こうした理由で、フィールドワークは地域創造学環のカリキュラムの「大黒柱」なのです。そしてそれは、県内各地の自治体、各種団体、専門家、市民のみなさまのご支援・ご協力により、成り立ってまいりました。この場をお借りしまして、これまで地域創造学環のフィールドワークにご支援・ご協力をいただいたすべてのみなさまに、あらためて心より御礼申し上げます。

地域創造学環では、平成29（2017）年度から令和６（2024）年度まで、フィールドワークに関する年次報告書を発行してきましたが、本報告書は、それら８年間のフィールドワーク全体の総括報告書となっております。みなさまにお手に取っていただき、目を通していただくことで、地域創造学環のフィールドワークの実績に少しでも触れていただければ幸甚です。

Ⅰ.フィールドワークの概観

―構想・実践・変遷―

太田　隆之（静岡大学地域創造学環／人文社会科学部）

はじめに

本章では、本冊子がテーマとする地域創造学環（以下、学環と記す）のフィールドワークの概観について、構想、実践、変遷の各視点から述べる。これらの視点からフィールドワークを述べるにあたって、これまでに学環のフィールドワークを説明してきた学環教員の文献を参照しつつも、両者にはなかった内容をこれらの視点に盛り込みながら説明し、本冊子における以降の章を読み進める上での基礎的視点と内容を提示したいと考えている。

１．学環におけるフィールドワークの構想と位置づけ

本節では学環におけるフィールドワークの構想と位置づけを確認する。冒頭で触れたように、フィールドワークの構想と準備段階の取り組みについては、これらに取り組んだ元学環教員の皆田潔氏や平岡義和元学環長による文章が詳しい(皆田, 2019; 平岡, 2022)。本節は、これらの文章を補完するべく、学環のカリキュラムや学環が掲げる教育目標との関連などからフィールドワークの構想と位置づけを把握していくことにする。

まず、学環のフィールドワークの概要を説明する。表１に学環のホームページに記載されているフィールドワークの説明を示した。

表１　学環のホームページにおけるフィールドワークの説明

学環のフィールドワークとは？

学環では、地域課題を解決する能力を育むために、１年生後学期から静岡県内のフィールドに出かけて、継続的にフィールドワークを行います。教員のアドバイスを受けつつ、地域の方々と交流しながら、地域の課題や資源を発見・探求し、課題解決のための提案をするとともに、場合によっては地域の方々とともに解決に取り組みます。

実施方法

学環で行われるフィールドワークでは、県内各地の中から取り組みたいフィールドを選び、学年を跨いでフィールドに通います。それによって聞き取りや企画実践等の試行錯誤を重ね、地域とのつながりを構築していきます。自らの専門分野を生かし、異なる分野の仲間と協同しながら、課題解決に取り組みます。

学環のフィールドワークの４つのポイント！！

①３コースを融合したグループを編成し、異分野が結束して取り組む。

②縦の繋がりを重視し、１年生から３年生をひとつのチームとする。

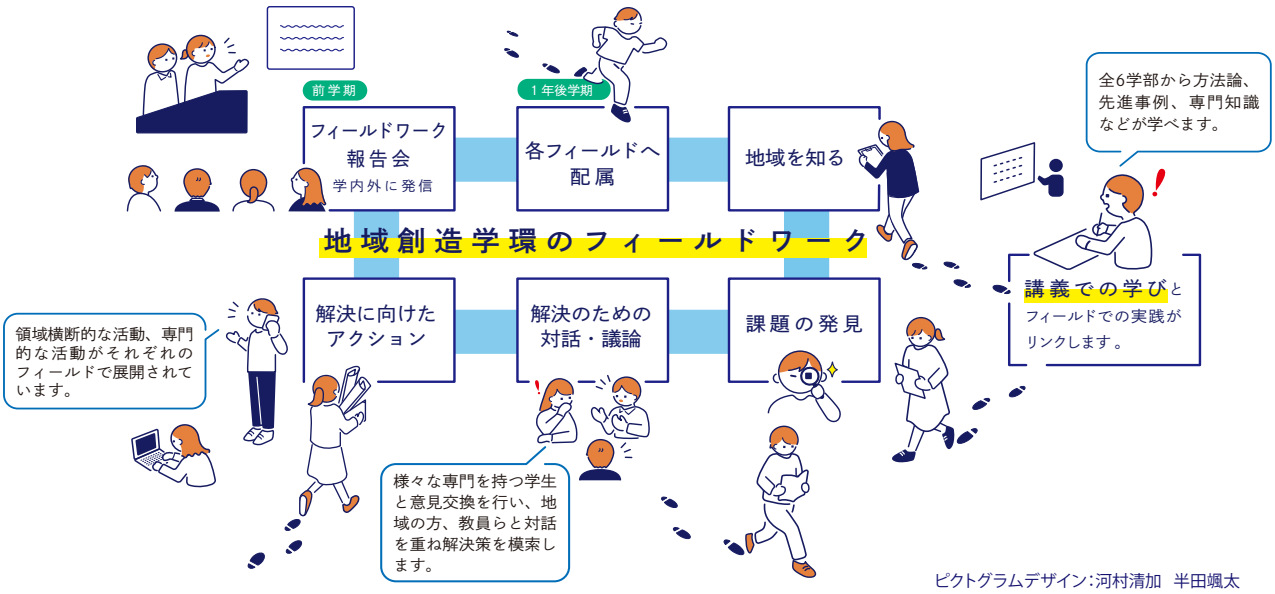
③単年度ではなく、中長期的に地域と関わり、信頼関係を醸成。
④地域に密着した体制により、地域の実情と課題に正面から対峙。

（出所）　静岡大学地域創造学環ホームページ「学環のフィールドワークの概要」より。本ホームページに記載された小見出しは表において斜体で表記している。

学環におけるフィールドワークは１年次後期に始まり、静岡県内に設けられているフィールドを学環生が選んで行われること、単年度に留まらず継続的に活動を行うこと、学年と学環に設けられたコース・分野を跨いで活動を行うことが説明されている。こうした体制の下で地域の皆様と交流しながら活動に取り組んでいくことを旨としていた。

図１は、フィールドワークで取り組む活動のイメージ図である。この図は各期のフィールドワークの活動と１年間の活動を示すだけではなく、１年次後期から始まって３年次に至るまでの展開のイメージも示している。これは、表２に示した学環が掲げる４年間の教育のイメージとも関連している。

図１　学環のフィールドワークの活動と展開のイメージ



（出所）静岡大学地域創造学環ホームページ「学環のフィールドワークの概要」より。

表２　学環の４年間の学び

学環での４年間の学びは、学年ごとに次のように進んでいきます。
１年次：幅広い教養を身につけるとともに、地域社会の問題を調査・発見します。
２年次：教養の幅を広げるとともに、地域社会の問題を多面的・専門的に考察・分析します。
３年次：考察・分析した地域社会の問題に対し、解決・対応策を企画・立案し、地域社会へ提示します。
４年次：地域社会と調整し、企画・立案した策を実施・運営または促進・発展します。また、学びの成果を卒業研究・卒業制作としてまとめます。

（出所）静岡大学地域創造学環ホームページ「学環での学び」より。

フィールドワークは学環のカリキュラムにおいて単体で設置されていたのではなく、相互に関連、補完する科目とともに位置づけられていた。特に、フィールドワークが始まる前の１年次前期はフィールドワークに取り組む準備期間として設定されており、「プレゼンテーション入門」や「ファシリテーション入門」、「地域づくりの課題Ⅰ」など、フィールドワークに取り組む上で必要となる基礎的なスキルや知識を学び、習得する科目を履修した上フィールドワークを履修するというカリキュラムが設計されていた（静岡大学地域創造学環ホームページ「学環での学び」）。

フィールドワークは１年次後期から３年次後期までの２年半にわたって設定されており、１年次後期に「フィールドワークⅠ」、２年次に「フィールドワークⅡA・ⅡB」、３年次に「フィールドワークⅢA・ⅢB」が設置され、これらを全て取り終えて終わるカリキュラムになっていた。いずれの科目も１単位であったが、卒業する上で単位の修得が必要な必修科目として位置づけられた。

学環におけるフィールドワークの位置づけは、学環が掲げる学位授与の方針（ディプロマポリシー、DPと記す）の下で学環が有するカリキュラムを整理したカリキュラム・マップから確認していくことにする[1)]。

まず、DPの内容について確認する。地域創造学環は付表に示したDPを掲げ、教育に取り組んできた。

このDPの下に掲げられた教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、CP）において、CPの方針の１つにフィールドワークが掲げられており、「教育課程目標の達成を担保する中核的な科目群」の１つとして１年次後期から３年次にわたる「フィールドワーク」が置かれた。そして、学環が掲げるカリキュラムをDPの下で整理したカリキュラム・マップを見ると、フィールドワークの各科目はほぼ全ての方針に関わる内容を含む科目として位置付けられた。表３に2018年度、2019年度入学生用のカリキュラム・マップを、表４に2020年度入学生用のカリキュラム・マップにおけるフィールドワークの各科目の位置づけを示した。

表３　2018年度、2019年度入学生用のカリキュラム・マップにおけるフィールドワークの各科目の位置づけ

	A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	E-1	E-2	E-3
フィールドワークⅠ	○	○	△	○	○	○	○	△		○	○	○	○	○	○
フィールドワークⅡA	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○
フィールドワークⅡB	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○
フィールドワークⅢA	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フィールドワークⅢB	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（出所）静岡大学ホームページ「地域創造学環　カリキュラム・マップ」における平成30年度・令和元年度入学生用のカリキュラム・マップより。

（注意）表中、◎は関連する＋この科目が主に意図する教育目標であること、○は関連する＋副次的・派生的な教育目標であること、△は関連するが、この科目の教育目標ではないことをそれぞれ示している。

表４　2020年度入学生用のカリキュラム・マップにおけるフィールドワークの各科目の位置づけ

	A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	E-1	E-2	E-3
フィールドワークⅠ	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	○	○	△	○	○	△
フィールドワークⅡA	○	◎	△	○	◎	△	○	◎	△	○	○	△	○	○	△
フィールドワークⅡB	○	◎	△	○	◎	△	○	◎	△	○	○	○	○	○	○
フィールドワークⅢA	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
フィールドワークⅢB	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○

（出所）静岡大学ホームページ「地域創造学環　カリキュラム・マップ」における令和２年度以降入学生用のカリキュラム・マップより。

（注意）表中、◎は特に重要な項目であること、○は重要な項目であること、△は望ましい項目であることを示している。

２つの表を見比べると、DPに掲げた教育目標との関連について、2019年度までと2020年度以降は多少目標との関わりが異なっている個所が認められるものの、共通して把握できることは、フィールドワークの各科目ともDPに掲げた５つの目標全てが目指すべき目標になっていたことである。フィールドワークが学環における中核的な科目であったことは、DPとの関係からも把握することができる。このように、フィールドワークは教育プログラムである学環における基幹的かつ中核的な科目であるとともに、学環を特徴づける科目であったことが確認できる。

２．フィールドワークの実践

フィールドワークの実践について述べるにあたり、本節では2020年以降世界規模で感染が拡大した新型コロナウイルスへの対応について述べていく。元来、フィールドワークの実践について述べる場合に、学環のフィールドワークが構想され、学環のDPの下に設計されて以降行われた活動やフィールドワークにおける取り決め、ルールの変更などを中心に述べることが妥当だと考える。しかし、2016年度以降学環内に設けられたフィールドワークの運営を担うフィールドワーク委員会の委員長職を担当する教員が代わってきたことがあり、もともとその立場になく、現在その立場にある筆者はこれを扱う力量を欠いていることをまず挙げなければならない。加えて、筆者が記憶する限り、フィールドワークに関する取り決めやルールについて、今日に至るまで大きな変更がなされてきていないことがある。そして、フィールドワークの実践は何よりも各フィールドで取り組まれてきたフィールドワークにおける具体的な活動にあるが、それらの内容は、これまで公表してきた毎年のフィールドワーク報告書に詳しいことから、それらをまずご確認いただくことが有益であり、正確である。この章の後に続く（まさに)「実践」の章では、各フィールドでこれまで取り組まれてきた活動の概要がまとめられてもいる。

本節において感染が拡大する新型コロナウイルスへの対応に絞って述べる理由として、新型コロナウイルスの感染拡大は、そもそも外出することに制約を課す事態を引き起こしたことがある。このことは即ち、フィールドワークを中核的な科目に据えて地域課題に取り組む人材育成を旨とした学環の根幹を揺るがす事態となり、フィールドの状況に関わらず全てのフィールドで共通する課題となった。こうした状況への対応について述べることは、フィールドワークの実践に関する１つのトピックについて述べることに過ぎないことであることを十分に承知しつつ、今後こうした事態に直面した際に学環が取り組んできたフィールドワークのような活動を継続することを考える際に、本節の記述は示唆的だと考える。

新型コロナウイルスの感染拡大の概要を確認する。新型コロナウイルスは、2019年12月に中国湖北省の武漢市で発生が報告され、2020年１月31日に世界保健機関によって「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態に該当する」と発表され、その感染が世界的に拡大した。日本でも2020年１月15日に最初の感染者が確認されて以降、都市部を中心に感染者数が増加し、地方においても急速に感染拡大する等、多くの感染者を生み出すこととなった[2)]。本学においても、2020年１月23日以降、大学のホームページ等より新型コロナウイルスならびにその感染拡大等についての情報が発せられた[3)]。2020年度に入って、４月中旬に「新型コロナウイルス感染症における静岡大学活動指針」が示され、全国的な感染状況等を踏まえて講義の実施等に関するレベルが公表され、大学本部のレベルの判断が示されることとなった。前学期の授業開始日が４月30日から開始されることになり、結果として６月８日に上記のレベルが下げられるまで在宅で講義、研究などが行われることになった[4)]。

当時の学環の会議資料を繙くと、新型コロナウイルスの感染拡大が認められる中で2020年度が明けて以降、上述したように外出することに対する制約がかかったことで屋外での活動ができなくなったことから、全てのフィールドでの活動が止まり、フィールドワークが実施できなくなった。こうした状況の中で、学環では、各フィールドにおけるそれまでの活動状況と、新型コロナウイルスの感染が拡大する中での地域との相談状況など、現状についての情報が収集され、フィールドワーク委員会から各フィールドの状況に関する一覧表が作成され、会議で共有される状況が続いた。

その間、フィールドワーク委員会では、上述した本学における活動指針に基づいてフィールドワーク実施についてのガイドラインの検討がなされた。６月に本学の指針に基づくレベルが引き下げられ、対面で行われる講義が一部実施することができる状況になって、７月に「フィールドワーク実施に際してのガイドライン（案)」が学環教員に提示され、会議で検討の上、認められた。このガイドラインは、上記の活動指針（レベル１～３）に沿ってフィールドワークの実施に関する対応をしていくこととされた。７月に示されたガイドラインの内容は以下の通りである。表５を見ると、実施２週間前から健康観察票に基づく体調管理を行うこと等が必須とされ、打ち合わせはオンラインで行うことが望ましいとされていたこと、公用車の乗車人数を定員の半分以下にすることなどがルールとなっており、感染拡大以前の状況と比較すると実施の条件が厳しくなり、大きく状況が変わったことがわかる。

表５　2020年７月に示された「フィールドワーク実施に際してのガイドライン（案)」

	滞在方法	体調管理	移動手段		出席人数	屋内での活動	イベント参加	打ち合わせ／調査／インタビュー	宿泊	体調不良者発生の対応
			公用車	公共交通機関						
学環としての方針	宿泊あり	健康観察票で体調不良者なし	①学環マイクロバス（定員22名/補助席あり29名）に11名まで ②学環キャラバン（定員10名）に４名まで ③学環セレナ（定員８名）に３名まで ④借り上げバス（定員22名）に11名まで (運転者を除いた人数) アルコール消毒液や洗剤を用いて感染症対策を行うこと。	感染症対策をとっている交通機関のみ ①バス ②電車	①公用車等の場合 最大11名まで ②公共交通機関の場合 他の要件に準じる	最低必要人数/換気/収容人数の３分の１以下	①屋外△ 密度が高いことが予想される場合等は× ②屋内×	相手が事前に了承の場合のみ/学生側原則２名以下（広いスペースが確保できる場合は増やしてもかまわない）	感染症対策をとっている宿泊施設のみ １部屋最大２名まで/教員と学生は同じ施設に宿泊	①診療 ②担当教員引率による帰宅 ③保護者送迎による帰宅
	宿泊なし	健康観察票で体調不良者なし	①学環マイクロバス（定員22名/補助席あり29名）に11名まで ②学環キャラバン（定員10名）に４名まで ③学環セレナ（定員８名）に３名まで ④借り上げバス（定員22名）に11名まで (運転者を除いた人数) アルコール消毒液や洗剤を用いて感染症対策を行うこと。	感染症対策をとっている交通機関のみ ①バス ②電車	①公用車等の場合 最大11名まで ②公共交通機関の場合 他の要件に準じる	最低必要人数/換気/収容人数の３分の１以下	①屋外△ 密度が高いことが予想される場合等は× ②屋内×	相手が事前に了承の場合のみ/学生側原則２名以下（広いスペースが確保できる場合は増やしてもかまわない）		①診療 ②担当教員引率による帰宅 ③保護者送迎による帰宅

	意向／希望	条件／キャパ	体制（オンライン等）	立地自治体等の方針
受け入れ先	有の場合に限る	あらゆる場面で三蜜対策をとれるケースのみ(打ち合わせ／インタビュー／イベント)	Zoomなどオンラインを併用することが望ましい	踏まえる

必須事項	前提となる感染症対策	・２週間前までの実施連絡票の通知を必須とする（出席学生は事前に確定、当日の予定外の出席は不可） ・実施２週間前から、学生及び引率教員は健康観察票に基づいた体調管理を行う。 ・引率教員は、安全マニュアル、携帯電話、出席学生の緊急連絡先を携帯する（従来通り） ・実施日前２週間（当日を含む）に健康観察票に記載の項目に該当した学生は、出席を取りやめる。引率教員が該当した場合は中止とする（２名以上の引率を予定していた場合は該当者以外の引率で実施） ・マスク着用、咳エチケット、三密の防止、手洗いうがい。アルコール除菌シートや消毒液等で各自でも対策をとる。 ・原則、物の共有はしない。 ・その他、各自で感染症対策を徹底する。 ・引率教員はFWの都度学環から貸与されるアルコール消毒液を携帯、適宜使用する。	学環のFW方針の提示及びFW受け入れ先との「合意」形成	備考）本ガイドラインは2週間目途に見直し更新する

（出所）2020年７月の運営会議資料より。

その後、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた大学本部からの活動方針の通知の内容を元に、その都度ガイドラインの内容を検討して見直しながら、フィールドワークを実施してきた。2023年５月８日に新型コロナウイルス感染症の法律上の扱いが５類感染症の扱いに変わることとなり、このことを受けて本学の活動指針も廃止され、フィールドワーク実施に関するガイドラインの検討と作成も終わった[5)]。最後に示されたガイドラインの内容を表６に示した。表５に示した当初のガイドラインの内容と比較すると、公用車の利用に関する制約が記載されていないこと等、実施に関する制約がかなり緩められることになったことがわかる。

表６　2023年５月に示されたガイドライン

新型コロナウイルス感染症における静岡大学活動指針（レベル１～３）に基づく
フィールドワーク実施に向けたガイドライン

Ver.12.0（20230401）

学環としての方針	
体調管理	健康観察の上で、体調不良者なし
移動手段 （公用車）	アルコール消毒液等を用いて感染症対策を行うこと。 ※窓は適宜開け、換気をすること。また、車内飲食・会話はなるべく避ける。
移動手段 （公共交通機関）	車内飲食等は極力避け、感染症対策を行い、利用すること。 ①バス　②電車
屋内での活動	施設の基準に従う。 （学内） 学内の基準に従う
イベント参加	イベント等の基準に従う。 （学内） 学内の基準に従う
打ち合わせ／ 調査／インタビュー	"相手が事前に了承の場合のみ、可能 ※必要に応じてオンライン利用も検討する。
宿泊ありの場合	施設の基準に従う。
体調不良者発生の対応	①診療 ②担当教員引率による帰宅 ③保護者送迎による帰宅
注意事項	〈前提となる感染症対策〉 • 学生及び教員は、日常的に体調管理を行う。 • 実施日前日または当日に発熱等の体調不良である学生は、出席を取りやめる。 • 引率教員は、安全マニュアル、携帯電話、学生の緊急連絡先を携帯する（従来通り） • 咳エチケット、三密の防止、手洗いうがい。アルコール除菌シートや消毒液等で各自でも対策をとる。個人の判断により必要に応じて、マスクの着用をする。 • 引率教員はFWの都度学環から貸与されるアルコール消毒液を携帯、適宜使用する。

（出所）2023年５月の運営会議資料より。

３．フィールドワークの変遷

最後に、フィールドワークの変遷について述べる。ここでは、フィールドワークの活動を行ってきた静岡県内のフィールドの開閉状況に注目する。

表７に、学環が始まった2016年度から事実上終えることになった2024年度の約９年間にわたるフィールドワークの活動場所であるフィールドの開閉状況をまとめた。開始年度である2016年度は合計13フィールドで始まったものの、翌年度には木下恵介記念館と川名ひよんどりの２フィールドを閉じることとなった。その後もスタート時点に行われていた駒形通り四丁目商店街のフィールドが閉まるなどのことがあったものの、東伊豆町や伊豆半島ジオパークのフィールドが開くなど、新たなフィールドが始まり、フィールドワークが行われることとなった。学環における最後の学生となった2022年度入学の学環生が最後のフィールドワークであるフィールドワークⅢBを履修し終えた2024年度には13フィールド14テーマのフィールドワークが行われており、各年度とも概ね10フィールド以上の数を維持しながら活動を行う場を確保してきた[6)]。

表７　各フィールドの開閉状況

フィールド名	清水港周辺地域	庵原地区	東静岡駅前	駒形通四丁目商店街	おまち	浅間通り商店街	焼津市 浜通り	浜松文芸館	佐久間町	とうもんの里	御前崎市
2016年度	スタート	スタート	スタート	スタート		スタート	スタート	スタート	スタート	スタート	
2017年度	継続	継続	継続	継続		継続	継続	継続	継続	継続	
2018年度	継続	継続	終了	継続		継続	継続	継続	継続	継続	スタート
2019年度	継続	継続		継続		継続	継続	継続	継続	継続	継続
2020年度	継続	継続		終了	スタート	継続	継続	継続	継続	継続	継続
2021年度	継続	継続			継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続
2022年度	継続	継続			継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続
2023年度	継続	継続			継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続
2024年度	終了	終了			終了	終了	終了	終了	終了	終了	終了

フィールド名	松崎町・商店街	松崎町・防災	東伊豆町	伊豆半島ジオパーク（防災）	伊豆半島ジオパーク（教育）伊豆半島全域（ジオパーク）	県営団地	多世代の居場所づくり	学内地域連携拠点	木下恵介記念館	川名ひよんどり
2016年度	スタート	スタート							スタート・終了	スタート・終了
2017年度	継続	継続	スタート	スタート	スタート	スタート				
2018年度	継続	継続	継続	継続	継続	継続		スタート		
2019年度	継続	継続	継続	継続	継続	継続		継続		
2020年度	継続	継続	継続	継続	継続	終了	スタート	継続		
2021年度	継続	継続	継続	継続	継続		継続	継続		
2022年度	継続	継続	継続	終了	継続		継続	継続		
2023年度	継続	継続	継続		継続		継続	終了		
2024年度	終了	終了	終了		終了		終了			

（出所）筆者作成。

フィールドの開閉が起きた理由や背景については、平岡元学環長がそれらの一端を説明している。平岡元学環長によると、フィールドを開いた当初の意図が時間が経つに連れて変わっていったことや、フィールド側の受け入れの体制も変化したことなどが理由や背景の１つとしてあったという（平岡, 2022, 12-13ページ）。また、本報告集の地域連携会議の議事録を分析した章において、フィールドの開閉に関わる諸点の議論がなされたことが扱われており、この章も併せて確認されたい。

むすびに代えて

本章では学環のフィールドワークの構想と実践、変遷をテーマに述べてきた。構想の節では学環のDPやカリキュラム上の位置づけからフィールドワークの学環における構想と位置づけを確認した。実践の節では新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、フィールドワークの実施に向けた学環の対応に注目し、変遷の節ではフィールドワークを行った静岡県内のフィールドの開閉の状況を確認した。筆者は約９年間フィールドワークを担当した教員であり、そうした立場から改めて本章を概観すると、本章はフィールドワークの制度的な側面の一端を説明したに過ぎず、学環のフィールドワークを十分に説明するものではなく、このことを自身でも十分自覚している。フィールドワークの本質はこの後に続く約９年間の実践と、受け入れていただいた地域の皆様との対話や議論にあり、一連の活動を通じた教育効果にこそ表れる。そうした意味では、本章は後に続く章を読み進める際のガイドの一端を行うことに役割があり、そうした役割は少しだけできたものと考える。筆者は、本章の内容を軽く押さえていただきながら、後に続く章を読み進めていただき、必要に応じて本章に立ち戻っていただければと考える。

脚注

１）以下、学環のDP、CP、カリキュラム・マップについては本学ホームページ「３つの方針（ポリシー）／ 地域創造学環」を参照。

２）新型コロナウイルスの感染拡大とこれに対する日本政府の対応については、令和２年版国土交通白書の特集、令和３年版障害者白書の第１章の記述を参照。

３）静岡大学ホームページ「新型コロナウイルスに関する学内周知、関連情報等（まとめ）」を参照。

４）静岡大学ホームページ「令和２年度前学期の授業の開始日等の変更について」、同「『新型コロナウイルス感染症における静岡大学活動指針』について」、同「令和２年度前学期の授業の実施方針について（教職員用）」を参照。

５）厚生労働省ホームページ「新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行後の対応について」、静岡大学ホームページ「令和５年４月１日以降の新型コロナウイルス感染症における静岡大学活動指針について」、同「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更に伴う対応について（通知）」を参照。

６）本学に新たにグローバル共創科学部が創設されることになったことを受けて、2023年度より学環生の新規募集が停止することとなった。地域創造学環ホームページ「学生の募集停止について（地域創造学環長声明）」を参照。

参考文献・資料

国土交通省編（2020）「令和２年版国土交通白書」

厚生労働省ホームページ「新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行後の対応について」
https://www.mhlw.go.jp/stf/corona 5 rui.html（2026年２月24日閲覧）

静岡大学ホームページ「『新型コロナウイルス感染症における静岡大学活動指針』について」
https://www.shizuoka.ac.jp/news/2020/pdf/2019-nCov/20200417_shishin.pdf（2026年２月24日閲覧）

静岡大学ホームページ「新型コロナウイルスに関する学内周知、関連情報等（まとめ）」
https://www.shizuoka.ac.jp/news/2020/covid-19.html（2026年２月24日閲覧）

静岡大学ホームページ「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更に伴う対応について（通知）」
https://www.shizuoka.ac.jp/news/2020/pdf/2019-nCov/20230428_notice_stu.pdf（2026年２月24日閲覧）

静岡大学ホームページ「地域創造学環　カリキュラム・マップ（平成30年度・令和元年度入学生用）」
https://www.shizuoka.ac.jp/education/policy/policy_f/srd_f/document/curmap_srd_h30_r1_f.pdf（2026年２月24日閲覧）

静岡大学ホームページ「地域創造学環　カリキュラム・マップ（令和２年度以降入学生用）」
https://www.shizuoka.ac.jp/education/policy/policy_f/srd_f/document/curmap_srd_r2_r3_f.pdf（2026年２月24日閲覧）

静岡大学ホームページ「３つの方針（ポリシー）／ 地域創造学環」
https://www.shizuoka.ac.jp/education/policy/policy_f/srd_f/#a03（2026年２月24日閲覧）

静岡大学ホームページ「令和５年４月１日以降の新型コロナウイルス感染症における静岡大学活動指針について」
https://www.shizuoka.ac.jp/news/2020/pdf/2019-nCov/20230327_shishin_guide.pdf（2026年２月24日閲覧）
静岡大学ホームページ「令和２年度前学期の授業の開始日等の変更について」
https://www.shizuoka.ac.jp/news/2020/pdf/2019-nCov/20200409_jugyoukaishi.pdf（2026年２月24日閲覧）
静岡大学ホームページ「令和２年度前学期の授業の実施方針について（教職員用）」
https://www.shizuoka.ac.jp/news/2020/pdf/2019-nCov/20200519_jugyoujisshihoushin.pdf?CN=6413（2026年２月24日閲覧）
静岡大学地域創造学環ホームページ「学生の募集停止について（地域創造学環長声明）」
http://59. 106. 190. 151/wordpress/wp-content/uploads/gakkan_bosyuteishi.pdf（2026年２月24日閲覧）
静岡大学地域創造学環ホームページ「学環のフィールドワークの概要」
https://www.srd.shizuoka.ac.jp/fw_outline/（2026年２月24日閲覧）
静岡大学地域創造学環ホームページ「学環での学び」
https://www.srd.shizuoka.ac.jp/learning/（2026年２月24日閲覧）
内閣府編（2021）「令和３年版障害者白書」
平岡義和（2022）「地域創造学環のフィールドワーク－立ち上げ、現状、課題」、『静岡大学地域創造教育研究』第３号：11-19.
皆田潔（2019）「地域に学ぶ―地域創造学環フィールドワークの取り組み」、静岡大学人文社会科学部・地域創造学環編、『大学的静岡ガイド―こだわりの歩き方』、昭和堂：208-209.

付表

地域創造学環　ディプロマ・ポリシー（DP）

地域創造学環は、現代の地域社会が抱えている様々な問題・課題に対処し、より活力にあふれ魅力的な地域社会の創造に取り組む人を育成するため、下記に示す知識、能力、態度を身につけるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（学術）の学位を授与する。

2022年度地域創造学環学生便覧より

	学環DP	キーワード・要素	地域サステナビリティコース 地域経営分野DP	地域サステナビリティコース 地域共生分野DP	地域サステナビリティコース 地域環境・防災分野DP	アート＆マネジメント コースDP	スポーツプロモーション コースDP
知識	(A) 地域の問題・課題を発見・解決するために必要な幅広い教養と体系的な専門的知識を身につけている。	文理融合的教養 総合化された教養	(A-1) 地域の問題・課題を発見・解決するために必要な幅広い教養を身に着けている。	(A-1) 地域社会の担い手として必要な、文化・社会・自然に関する幅広い教養を身につけている。	(A-1) 地域の環境や防災の担い手として必要な、文化・社会・自然に関する幅広い教養を身につけている。	(A-1)地域社会の担い手として必要な、芸術・文化・社会・自然に関する幅広い教養を身につけ、それらを美術・デザイン及びアートマネジメントに関連する事項において知識探求することができる。	(A-1)地域社会の担い手として必要な文化・社会・自然に関する幅広い教養を身につけ、それらをスポーツ・健康に関する事柄との関連において知識探求することができる。
		地域問題・課題に関する専門的知識	(A-2) 地域の問題・課題を発見・解決するために必要な専門的知識を体系的に身に着けている。	(A-2) 地域の問題・課題を発見・解決するために必要な専門的知識を体系的に身につけている。	(A-2) 環境や防災に関わる地域の問題・課題を発見・解決するために必要な専門的知識を体系的に身につけている。	(A-3) アートないしはアートマネジメントの分野において必要な専門的かつ応用性のある知識と技術を身につけている。	(A-2) 地域で展開されるスポーツ・健康の課題を発見・解決するために必要な専門的知識を体系的に身につけている。
		関連する基礎的学問に関する素養	(A-3) 地域の問題・課題を発見・解決するために必要な基礎的学問に関する素養を有している。	(A-3) 地域の問題・課題を発見・解決するために必要な基礎的学問に関する素養を有している。	(A-3) 環境や防災の問題・課題を正しくとらえるために必要な基礎的学問に関する素養を有している。	(A-3) アートないしはアートマネジメントの分野における基礎理論・技能に関する素養を有している。	(A-3) 地域で展開されるスポーツ・健康の課題を発見・解決するために必要な基礎的学問に関する素養を有している。
能力	(B) 地域資源（文化・社会・自然等）を理解し、地域の問題・課題の解決に必要な情報やデータ等を専門的知識・手法により適切に調査・分析・処理するとともに、その結果を効果的に表現することができる。	調査・情報収集力 分析・検証力 数量的スキル	(B-1) 地域資源を理解し、地域の問題・課題の解決に必要な情報やデータ等を調査・収集・分析することができる。	(B-1) 地域資源（文化・社会・自然等）を理解し、地域の問題・課題の解決に必要な情報やデータ等を専門的知識・手法を用いて調査・分析することができる。	(B-1) 地域資源(文化・社会・自然等)を理解し、地域の環境や防災にかかわる問題・課題の発見や解決に必要な情報・データ等を専門的知識・手法を用いて調査・分析することができる。	(B-1) 地域資源（芸術・文化・社会・自然等）を理解し、地域の問題・課題の解決に必要な情報やデータ等を専門的知識・手法を用いて調査・分析することができる。	(B-1) 地域資源を理解し、地域課題の解決に必要なスポーツ・健康に関する情報やデータ等を専門的知識・手法を用いて調査・分析することができる。
		情報リテラシー （情報処理）	(B-2) ICTを用いて、多様な情報やデータ等を自らの目的にそって効果的に処理・活用することができる。	(B-2) ICTを用いて、多様な情報やデータ等を自らの目的にそって効果的に処理・活用することができる。	(B-2) ICTを用いて、多様な情報やデータ等を自らの目的にそって効果的に処理・活用することができる。	(B-2)ICTを用いて、多様な情報やデータ等を自らの目的にそって効果的に処理・活用することができる。	(B-2)ICTを用いて、多様な情報やデータ等を自らの目的にそって効果的に処理・活用することができる。
		文書表現力 デザイン力 実技表現力	(B-3) 分析・検討した情報やデータ等を専門的知識、手法を用いて分析・検討し、提示することができる。	(B-3) 調査・分析・処理した情報やデータ等を文章・図像・実技実演等により効果的・印象的に表現することができる。	(B-3) 調査・分析・処理した情報やデータ等を文章・図像・実技実演等により効果的・印象的に表現することができる。	(B-3) 調査・分析・処理した情報やデータ等を文章・視覚的表現により効果的・印象的に示すことができる。	(B-3) 調査・分析・処理した情報やデータ等を文章・図示・実技実演・作品等により効果的に表現することができる。
	(C) 地域が抱える問題・課題を発見するとともに、それを多面的に考察し、創造的な思考と論理的・総合的な判断により解決策を企画・立案することができる。またそれを地域社会の様々な主体との協働により実行することができる。	問題・課題発見力 多面的考察力 論理的思考力	(C-1) 現場と関わる中で地域の問題・課題を発見し、その本質を理解することができる。	(C-1) 地域現場との豊富な関わりの中で地域の問題・課題を発見し、多面的かつ論理的な考察により、その本質を理解することができる。	(C-1) 地域における環境や防災の問題・課題を発見し、多面的かつ論理的な考察により、その本質を理解することができる。	(C-1) 地域現場との豊富な関わりの中で、地域の問題・課題について多面的かつ論理的に考察し、その本質を理解することができる。	(C-1) 地域との豊富な関わりの中でスポーツ・健康の課題を発見し、多面的かつ論理的な考察により、その本質を理解することができる。
		創造的思考力 企画・立案力	(C-2) 地域問題・課題の対応策を地域社会の様々な主体との協働に基づき、企画・立案することができる。	(C-2) 創造的な思考と論理的かつ総合的な判断により、地域問題・課題の具体的な解決策・対応策を企画・立案することができる。	(C-2) 創造的な思考と論理的かつ総合的な判断により、地域の環境や防災に関する問題・課題の具体的な解決策・対応策を企画・立案することができる。	(C-2)創造的な思考と論理的かつ総合的な判断により、地域問題・課題の具体的な解決策・対応策を企画・立案することができる。	(C-2)創造的な思考と論理的かつ総合的な判断により、地域で展開されるスポーツ・健康に関する課題の具体的な方策について、企画・立案することができる。
		問題解決力 実践力、協働力 マネジメント能力 プロモーション能力	(C-3) 地域問題・課題の解決策・対応策を地域社会の様々な主体との協働により効果的に実施・運営、ないしは促進・発展させることができる。	(C-3) 地域問題・課題の解決策・対応策を地域社会の様々な主体との協働により効果的に実施・運営、ないしは促進・発展させることができる。	(C-3) 地域の環境や防災に関する問題・課題の解決策・対応策を地域社会の様々な主体との協働により効果的に実施・運営、ないしは促進・発展させることができる。	(C-3)地域問題・課題の解決策・対応策を地域社会の様々な主体との協働により効果的に実施・運営・管理、ないしは促進・発展させることができる。	(C-3)地域課題の解決策を地域社会の様々な主体との協働により効果的に実施・発展させることができる。
	(D) 自らの考えや判断を論理的かつ効果的に伝達できるとともに、他者の発言等に真摯に傾聴してその要点を的確にとらえることができ、他者と自らの意見の交換や調整をすることができる。	伝達力 プレゼンテーション力	(D-1) 多種多様な地域の人々に対し、自らの考えや判断を効果的に伝えることができる。	(D-1) 多種多様な地域の人々に対し、自らの考えや判断を論理的かつ効果的に伝えることができる。	(D-1) 多種多様な地域の人々に対し、自らの考えや判断を論理的かつ効果的に伝えることができる。また、地域の環境や防災に関わる問題・課題、あるいはそれに対する取り組みを広く世の中に情報発信できる。	(D-1) 多種多様な地域の人々に対し、自らの考えや判断を論理的かつ効果的に伝え、また実技実演等により効果的・印象的に表すことができる。	(D-1) 多様な地域の人々に対し、自らの考えや判断を論理的に伝え、また、文章・図示・実技実演・作品等により効果的に表現することができる。
		傾聴力 親和力・共感力 コーディネーション力	(D-2) 他者の意見や考えを尊重することができる。	(D-2) 他者の意見や考えを真摯に傾聴するとともに、親和性をもって他者と意見交換や意見調整を行うことができる。	(D-2) 他者の意見や考えを真摯に傾聴するとともに、親和性をもって他者と意見交換や意見調整を行うことができる。	(D-2) 他者の意見や考えを真摯に傾聴するとともに、親和性をもって他者と意見交換や意見調整を行うことができる。	(D-2) 他者の意見や考えを真摯に傾聴するとともに、親和性をもって他者と意見交換や意見調整することができる。
		意見や行動等を引き出す力 働きかける力 ファシリテーション力	(D-3) 他者から多様な意見やアイデア、動機などを効果的に引き出し、話し合い等をより有益なものにするための働きかけができる。	(D-3) 他者から多様な意見やアイデア、動機などを効果的に引き出し、話し合い等をより有益なものにするための働きかけができる。	(D-3) 他者から多様な意見やアイデア、動機などを効果的に引き出し、話し合い等をより有益なものにするための働きかけができる。	(D-3) 他者から多様な意見やアイデア、動機などを効果的に引き出し、話し合い等をより有益なものにするための働きかけができる。	(D-3) 他者から多様な意見やアイデアなどを効果的に引き出し、話し合い等をより有益なものにするための働きかけができる。
関心・意欲・態度	(E) 地域の問題・課題に積極的に関心を持ち続け、社会のルールや規範を尊重するとともに、多様な価値に基づいて他者や社会の発展のために行動できる。	意欲・関心 向上心 生涯学習力	(E-1) 地域の問題・課題に積極的な関心を持ち続けることができる。	(E-1) 地域の問題・課題に積極的に関心を持ち、社会にでてからも学ぶ意欲を持続できる。	(E-1) 地域の環境や防災の問題・課題に自ら積極的に関心を持ち続け、卒業後もそれに取り組もうとする意欲を有している。	(E-1) 地域で展開される美術・デザイン及びアートプロジェクトの問題・課題に自ら積極的に関心を持ち続け、卒業後もそれに取り組もうとする意欲を有している。	(E-1) 地域で展開されるスポーツ・健康の課題に自ら積極的に関心を持ち続け、卒業後もそれに取り組もうとする意欲を有している。
		規範性	(E-1) 地域社会の一員としての役割と責任を理解することができる。	(E-2) 既存の規範や所与のルールの問題点を見出し、地域の人々や社会の発展のために積極的に関与し、新しい価値を創造できる。	(E-2) 目的や目標のために自らを適切に律し、社会のルールや規範を尊重しつつ行動できる。	(E-2) 目的や目標のために自らを適切に律し、社会のルールや規範を尊重しつつ行動できる。	(E-2) 地域創造に資する目的・目標を適切に設定し、き、その実現に向け常に心身を整えようと自己管理するとともに、社会の規範やルールを尊重し行動または助言できる。
		多様な価値観 社会の発展	(E-3) 地域社会の一員としての意識を持ち、多様な価値に基づいて他者や地域社会の発展のために行動できる。	(E-3) 人間の尊厳と基本的人権を尊重する価値に基づいて行動し、他者に配慮しながら、社会の発展のために行動できる。	(E-3) 地域社会の一員としての意識を持ち、多様な価値に基づいて他者や地域社会の発展のために行動できる。	(E-3) 地域社会の一員としての意識を持ち、多様な価値観を認め、美術・デザイン及びアートマネジメントの活動を通し他者や地域社会の発展のために行動できる。	(E-3) 地域社会の一員としての意識を持ち、多様な価値に基づいて他者や地域社会の発展のために行動できる。

Ⅱ．各フィールドワークの実践

静岡市　清水港周辺地域

清水周辺地域が“つながる”“ひろがる”“にぎわう”活動

（2016年度）　「行政や地元商店街と考える“おもてなし”と“情報発信”の在り方」
SHIMIZU情報発信ツール開発プロジェクト
（2017～2020年度）　浜田・清水地区の情報発信とおもてなしによる交流・活動人口の増加

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　石川　宏之

清水港は、富士山を望む景勝地であり、歴史ある港湾文化と現代の観光資源が共存する魅力的な地域です。しかし、後継者不足による商店街の衰退や、コロナ禍でのインバウンド需要の停滞といった課題に直面しています。これに対し学生たちは、現地調査に基づき、外国人旅行客用「多言語ポップ」による情報発信の強化や、地域団体と連携した「フォトロゲイニング」の実施など、実践的な解決策を講じました。最終年度には「清水おでかけMAP」を作成し、持続可能な地域活性化への貢献を果たしました。

本フィールドワークでは、学生が主体となって地域課題に向き合う姿勢を最重視しました。コロナ禍という厳しい制約の中でも、地域の方々と対話を重ね、粘り強く活動を継続した経験は、学生たちに実践的な課題解決能力と地域連携の重要性を教え、大きな成長をもたらしました。卒業生の皆さんが在学中に築いてくれた知見と情熱があったからこそ、この活動は今も未来へと繋がっています。大学を巣立ち、社会の第一線で活躍されている皆様の姿は、現役生の大きな励みです。このフィールドワークでの経験を糧に、皆様がさらに豊かな未来を切り拓いていかれることを心より願っております。

有限会社都市環境デザイン研究所　木村　精治 様

私が関わった６年間のフィールドワークでは、最終年には学生が地域に惜しまれる存在でした。「スマイル・ロゲイニング1・2」や「おでかけマップ」など、思いを形に残すことで、学生は達成感と自信を育みました。地域との協働を通じて、学生の存在価値は高まり、フィールドワークは学びを超え、心に残る体験の場となりました。

今、一人の卒業生が行政職としてこの地域の担当者となり、地域に育てられ、地域に還る、その循環の中に未来への希望と、フィールドワークの本質があると感じます。

現地見学@エスパルスドリームプラザ
（2016年度）

ハロウィンイベント@清水区役所
（2017年度）

外国人旅行客用「多言語ポップ」配布
（2017年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2016	清水港線跡地の自動車歩行者道のワークショップ参加、まち歩き、PRビデオの制作案を提案	
	○岩田孝仁、栗原誠、石川宏之	M：遠藤有紗、影山舞、本田圭美、　I：杉山莉奈、　E：梅田和典、太田智輝、勝又壮平 S：岩崎彩音、加藤楓、藤浪茉央
2017	清水港線跡自転車歩行者道関連イベントの実施、外国人旅行客用ポップの作成、「外国客船寄港時用まち歩きマップ」のコンテンツ抽出	
	○石川宏之、岩田孝仁	M：影山舞、本田圭美、小坂優果、　I：杉山莉奈、　E：梅田和典 A：樋口加奈、　S：岩崎彩音、坂井宏輔、藤川智奈美、野村圭生、溝上敬佑
2018	「平成最後の秋祭り」の開催、浜田地区・清水地区冊子作成、次郎長通り商店街の活性化に向けた提案、外国人旅行客用ポップの作成（継続）	
	○石川宏之、岩田孝仁	M：影山舞、本田圭美、　I：杉山莉奈、　E：梅田和典 A：樋口加奈、玉木絢女、　S：岩崎彩音、坂井宏輔、藤川智奈美、沼田浩範、野村圭生、溝上敬佑、上田七珠、長谷川恭平
2019	入江地区・浜田地区・日の出地区のまち歩き、浜田小学校の児童に少子高齢化の課題解決のためのアンケート調査、ミナトブンカサイの見学	
	○石川宏之、岩田孝仁	A：樋口加奈、玉木絢女 S：沼田浩範、野村圭生、溝上敬佑、上田七珠、長谷川恭平、大川原翔、深井康平、本田悠
2020	事例研究レポートを活かし、課題解決の情報共有に利用、「河岸の市」「駅前銀座商店街」等４施設のヒアリングによる地元認識との相違点発見、実現可能性のある取り組みの創出・提案	
	○石川宏之、岩田孝仁	A：玉木絢女 S：上田七珠、長谷川恭平、大川原翔、深井康平、本田悠、合田千夏、澤田美咲、鈴木美優
2021	まち歩きと企画立案、意見交換会の実施、企画内容の振り返り	
	○石川宏之、小二田誠二	E：小林芽吹 S：大川原翔、深井康平、本田悠、合田千夏、澤田美咲、鈴木美優、大須賀祥真、　新宮周馬
2022	「ロゲイニング」イベントのための関係者との調整、道具、事前マニュアルの作成、リハーサル、「スマイルロゲイニング」の実施、反省会	
	○石川宏之、小二田誠二	E：小林芽吹 A：鈴木愛理 S：合田千夏、澤田美咲、鈴木美優、大須賀祥真、新宮周馬、日下部友香、西海土和花、平井朋美
2023	イベントの企画・準備、「スマイルロゲイニング２」の実施、反省会	
	○石川宏之、小二田誠二、杉山康司	E：小林芽吹 A：鈴木愛理、 S：大須賀祥真、新宮周馬、日下部友香、西海土和花、平井朋美
2024	「清水おでかけMAP」の企画、準備、マップの作成、マップの完成・配布	
	○石川宏之、小二田誠二、杉山康司	A：鈴木愛理 S：日下部友香、西海土和花、平井朋美

清水駅前銀座商店街でのまち歩き
（2021年度）

スマイルロゲイニング2の終了後の集合写真
（2023年度）

「清水おでかけMAP」配布（2024年度）

静岡市　庵原地区

地域資源を活かした食・スポーツによる地域活性化

（2016～2018年度）　庵原地区の地域資源を活かしたスポーツと食による「健康長寿のまちづくり」

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　村田　真一

庵原地区を舞台にした９年間のフィールドワークは、「食とスポーツによる地域活性化」を理念として、調査・企画・実践を段階的に進めてきました。初年度は地域資源の魅力を把握するため、移住促進パンフレットやイベント企画を通じて地域の認知度向上を図りました。２年目以降はノルディックウォーキングイベントや地産品を活用したマルシェなど、住民参加型の活動を展開し地域交流を促進しました。中期には住民を対象にした大規模アンケートや座談会を実施し、健康意識や観光資源に関する課題を導きました。その結果を踏まえ、スポーツツアーや健康フェスタなど実践的な取り組みを強化しました。後期には「道の駅」構想への参画や庵原地区のロゴ制作、さらにはプロスポーツ球団との連携事業など、広域的な事業活性化へと発展しました。以上の活動から、持続可能なまちづくりの基盤を築く成果を残しました。この間、静岡市まちづくり公社様や庵原地区連合自治会様には、多くのご支援とご尽力を賜りました。今後は、これまでの知見を活かし、地域資源を活用した新たなまちづくりモデルの構築が期待されます。

清水区　いはら道の駅プロジェクト　企画委員
（前）清水ナショナルトレーニングセンター健康スポーツ課長　酒井　政幸 様

フィールドワークを振り返ると、「フィールドワーク（FW）かぁ、いろいろあったよねー（笑）」と、いま卒業生がいたら、まずそんな話になるのかなと思います。そして学環創立時には平岡先生より「地域づくりに貢献できる人材育成を」とお話をいただいた記憶があります。

当時、ちょうど清水庵原地区の住民主体により地域に人を呼び込むため「道の駅プロジェクト」が立ち上がり、学生にはFWとしてプロジェクトの企画・実施の他、その考察や展望、そしてロゴマークのデザインなどに力を発揮していただきました。そうした積み重ねもあり、地域の皆さんから①FWに対する理解が進み、②信頼関係も深まり、③徐々に頼られる存在となりました。これら成果のある活動によりFWを通して学生が「成長」して行く事が、とてもうれしかったです。（涙）

庵原の“ビュースポット”にて（2016年度）

学生が考案したスイーツの試作品を体験（2017年度）

清水ナショナルトレーニングセンター視察（2018年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2016	庵原の魅力や課題点の確認、清水ナショナルトレーニングセンターなどの庵原のスポット巡り、庵原への移住促進パンフレット企画案の作成	
	○村田真一、水谷洋一、杉山卓也	M：和泉直人、　E：杉山尚暉 S：海野真由、岸野泰知、小西涼奈、佐藤まどか、嶋村浩直、七海遥喜、藤川智奈美、水野大貴
2017	庵原地区の魅力発信をテーマとしたイベントに向けた「ノルディックウォーキングのコース設定」・「スイーツの考案」・イベント実施	
	○村田真一、水谷洋一、杉山卓也	M：和泉直人 A：矢勢才華、S：加藤鉄平、岸野泰知、水野大貴、大城ひいろ、山下宇光、山梨空良
2018	清水ナショナルトレーニングセンターの課題発見・アンケート調査の計画、J-STEPマルシェ2019のブースの看板とイベントに使用したくじ引きのデザイン・ウォークラリーの手伝い	
	○村田真一、杉山卓也、川﨑和也	M：和泉直人、　A：矢勢才華、岸山莉子 S：加藤鉄平、岸野泰知、塩崎陽也、水野大貴、大城ひいろ、山下宇光、山梨空良、植松舞、木村心香、竹端勇人
2019	住民の運動・スポーツ活動実態を把握、生活・暮らしの改善に資する基礎資料を得るためのアンケート調査、調査結果分析、住民への報告会実施	
	○村田真一、杉山卓也、川﨑和也	A：矢勢才華、岸山莉子 S：大城ひいろ、山下宇光、山梨空良、植松舞、木村心香、竹端勇人、小野田泰地、神原悠輔、木川静、巽文花、山口理生、山地菜月
2020	庵原地区住民と座談会を開催（月1回開催／各回にテーマを決め、庵原地区や各自治会ごとの課題や解決策について話し合い）、食とスポーツを利用したプレスポーツツアー開催	
	○村田真一、杉山卓也、川﨑和也	M：佐藤啓介、　A：岸山莉子 S：植松舞、木村心香、竹端勇人、小野田泰地、神原悠輔、木川静、巽文花、山口理生、山地菜月、勝又すず花、藤波千暖、宮川智也、油井菜夏
2021	アンケート調査、スポーツツアー、中部横断自動車道開通に伴う「道の駅」実現に向けた社会実験への参加（道の駅構想懇話会第二弾への参加）	
	○村田真一、杉山卓也、川﨑和也	M：佐藤啓介 S：小野田泰地、神原悠輔、木川静、　巽文花、山口理生、山地菜月、勝又すず花、藤波千暖、宮川智也、油井菜夏、狩生龍之介、刈谷奈々、法月優衣
2022	「清水いはら」のロゴマーク策定、中部横断自動車道開通に伴う「道の駅」実現に向けた社会実験への参加「清水庵原フェス」イベントブース出展	
	○村田真一、杉山卓也、平嶋裕輔	M：佐藤啓介 S：勝又すず花、藤波千暖、宮川智也、油井菜夏、狩生龍之介、刈谷奈々、法月優衣、上田涼斗、木元朝陽、早乙女寛太、利根川悠太、西山拓真
2023	清水テルサ健康フェスタでのブース出店・ステージ発表、庵原フェスでスポーツイベントブースを出店、「くふうハヤテベンチャーズ静岡」に関する討論会に参加	
	○村田真一、杉山卓也、平嶋裕輔	S：狩生龍之介、刈谷奈々、法月優衣、上田涼斗、木元朝陽、早乙女寛太、利根川悠太、西山拓真
2024	「だれでもスポーツday」イベントの参加、健康フェスタでのブース出店、万灯祭の運営補助、庵原住民への調査、くふうハヤテベンチャーズ静岡観戦者への調査	
	○村田真一、杉山卓也、平嶋裕輔	S：上田涼斗、木元朝陽、早乙女寛太、利根川悠太、西山拓真

J-STEPサッカーグラウンドにて施設の説明を受ける（2019年度）

スポーツツアーin庵原（2021年度）

万灯祭イベントの様子（2023年度）

静岡市　おまち

おまちを中心とした静岡市内のにぎわい創出（2020年～2024年度）

（2016～2020年度前期）　駒形通り4丁目商店街で活動　　P47参照

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　原　瑠璃彦

私がおまちのフィールドワーク（FW）に参加するようになったのは、本学に着任した2021年からです。まだコロナ禍２年目と言える時期で、とくに「おまちバル」という飲食を主軸とした催しでFWを行うにあたってはさまざまな障壁があり、常にどのような活動を行うべきかを問い模索しながら進めていったことが、いまとなっては懐かしく思い出されます。そのなかでは、「おまちバル」の運営の一部を担わせていただくほかに、各店舗へのインタビューと記事作成や、学生主体のバル企画、SNSでの広報活動など、毎年異なる活動を行いました。

飲食業という、私たちが生きてゆく上では決して欠くことのできない営み。そこにアルバイトではなく「授業」という枠組みでコミットするがゆえに、地域と飲食、店舗と顧客、マーケティング、人とのコミュニケーションなど、さまざまなトピックを多面的に全身で学ぶことができたのではないかと思います。なかでも2024年度の活動では、専門の方々にご指導いただきながらInstagramでの広報を実施し、まさに最新のマーケティングを実践できました。

参加された学生の皆さんが、卒業後、社会で生きてゆくなかで、このFWでの経験をふと思い出すような場面があることを、切に祈っています。

私たちを常にリードしてくださり、種々の貴重な機会をくださった、おまちバル実行委員会の松下和弘さんに深く感謝申し上げます。

おまちバル実行委員会　松下　和弘 様

次代の「リアルインフルエンサー」を目指して！！

私たちは、地域の個人経営者が営む飲食店を「地味性（じみせ）」と呼び、「地酒」「地魚」と同様の地域資源と位置付けています。静岡の中心街「おまち」にある「地店」のカウンターでは、夜ごと、市外県外の方々がお酒を通じて地元の方々と語り、笑い合う中で、「しぞ～か」のファンになっていきます！「おかげでしぞ～かが好きになりました！！」は、まさに地店のカウンターがリアルのSNSになる瞬間です！学生実行委員は、ご一緒して６年間で30名位。実行委員会での活動を通じて、リアルのインフルエンサーになってくれたら、この上ない喜びです！

おまちバル見学（2020年度）

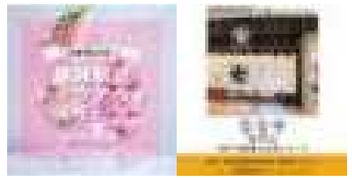
抽選会手伝い（2020年度）

クラフトビール醸造所の取材（2021年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、Ｉ：地域共生、Ｅ：地域環境・防災 Ａ：アート＆マネジメント、Ｓ：スポーツプロモーション
2020	駒形通商店街の1丁目～5丁目までを総括する団体「コマカツ」が主催する例会への参加、静岡商業高校主催のごちそうマート駒形を見学、おまちバル見学（チラシの配布や学割フライヤー、電子ブックの作成）	
	○井原麗奈、平岡義和、伊藤文彦、髙橋智子	M：岡本怜音、武田小真智、中野萌、　Ｉ：岡本敦、黒田千晴、出木美沙緒 Ａ：濱嶋ななみ、渡邊紗也佳、　Ｓ：西村実紗
フィールド変更　駒形通り四丁目商店街→おまち		
2021	オール静岡春バルWeekへの参加（学割チケット販売、フライヤー作成、インスタグラムでのプロモーション、会議参加、抽選会手伝い）、静岡クラフトビアバルへ取材	
	○平岡義和、原瑠璃彦	M：武田小真智、中野萌、山口誠人、　Ｉ：出木美沙緒 Ａ：濱嶋ななみ、渡邊紗也佳、外木未夏、日名子ゆり、　Ｓ：西村実紗
2022	オール静岡春バルWeekへの参加（店舗の開拓、広報）、学生、若者をターゲットにしたミニバル「秋の甘味巡りスイーツ小町」で店舗開拓、チケット販売、フライヤー作成、SNSでのプロモーション、抽選会の手伝い	
	○原瑠璃彦、平岡義和	M：武田小真智、中野萌、山口誠人、井上文誉、漆畑璃々花、沖山寿幸 Ａ：外木未夏、日名子ゆり、　Ｓ：西村実紗
2023	SNSのプロモーション（インスタグラム活用、公式YouTube、公式ホームページでの広報）、おまちバルの出展者へのインタビュー	
	○原瑠璃彦、平岡義和	M：山口誠人、井上文誉、沖山寿幸 Ａ：外木未夏、日名子ゆり、漆畑璃々花
2024	SNSマーケティングについての学習、おまちバル広報のためSNSプロモーションの強化（インスタグラムを新しくバージョンアップ、ストーリーズの活用など）	
	○原瑠璃彦、平岡義和	M：井上文誉、沖山寿幸 Ａ：漆畑璃々花

おまちバル体験（2021年度）

クラフトビール醸造所の取材（2021年度）


第25回のInstagramの投稿画像（2024年度）

バル後の反省会（2021年度）

おまちバル抽選会の様子（2022年度）

バル参加店への取材（2023年度）

静岡市　浅間通り商店街

浅間通り商店街のにぎわい創出

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　川原﨑　知洋

「地域の子どもたちに、浅間通り商店街を好きになってもらいたい」これは静岡浅間通り商店街振興組合の藤若道子様の言葉です。この言葉を学生たちなりに咀嚼し、いかに具現化することができるかといった挑戦の場だったように思います。浅間通り商店街フィールドワーク（FW）は、子どもを対象としたイベント企画、商店街の広報企画、足元灯の展示企画の３つが中心的な活動でした。FWの時間外でも、学生たちは商店街振興組合の方々と関わり合いながら、なぜその企画が必要か？その企画を推進するためには何が必要か？を議論しました。その時々の状況に応じて「すべき活動」と、自分たちが「したい活動」との折り合いがついた時、学生たちは大きく飛躍できたように感じます。

浅間通り商店街振興組合の皆様ありがとうございました。

2024年度 担当教員　平岡　義和

このフィールドでは、商店街の方々がイベントの一部の運営を学生にまかせてくださいました。そこで、たとえば10月の長政祭りでは、学生たちは「地面にお絵かき」など子どもを対象にした様々な企画を立案･運営することができました。また、コロナ禍の時は、商店街のイベントが中止になり、活動ができず悩みましたが、商店街にある足元灯に雛飾りを設置するなど新たな取り組みも生みだされました。このように最後まで多様な活動を展開することができたので、学生たちにとって得がたい社会経験になったと思います。それもひとえに学生たちをあたたかく見守ってくださった商店街の方々のおかげだと思います。長い間本当にありがとうございました。

浅間通り商店街振興組合理事　原木　公子 様

もうすぐ長政まつり。静岡浅間通りが一番にぎわう時です。学環生たちは毎回子ども広場で盛り上げてくれました。はじめはお手伝いをお願いするばかりでしたが、年々、メンバーは変われど浅間通りをフィールドとして理解を深め、日・タイ友好のまつりにふさわしい遊びを提案してくれるようになりました。（※長政まつり　毎年10月に開催）

輪くぐりさん、商店街マップ、足元灯の装飾、SNS等々、思い出は尽きません。各地から静大にやってきたみなさんが、浅間神社と商店街について学ぶことから出発し、コロナ禍も乗り越え、商店街活動の一部を担う存在にまで進化してくれました。浅間通りをフィールドに選んでくれた多くの学生さん達とご指導いただいた先生方に、商店街一同、心より感謝しております。みなさまの今後のご活躍をお祈りし、笑顔で再会できることをお待ちしております。

人気どら焼き店にて（2016年度）

浅間通りについて学ぶ（2018年度）

長政まつり・地面にお絵描き（2019年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、Ｉ：地域共生、Ｅ：地域環境・防災 Ａ：アート＆マネジメント、Ｓ：スポーツプロモーション
2016	浅間通り商店街組合理事長、同副理事長との顔合わせ（浅間通り商店街の歴史を学ぶ）、浅間通りにある商店の種類・概要について学ぶ、商店街の店主への聞き取り調査	
	○日詰一幸、芳賀正之、川原﨑知洋、山本崇記、杉山康司	Ｍ：大石清香、木下湧太、水野なな子、　Ｉ：佐藤恵美、西子幸裕、　Ｅ：服部智美
2017	浅間神社の見学、神主さんにインタビュー、安倍の市に参加、長政祭りに参加、文化財資料館＆昭和展見学、吉原・三島商店街見学、ぶら門前ツアーに参加	
	○平岡義和、川原﨑知洋	Ｍ：水野なな子、吉田慎太郎、　Ｉ：佐藤恵美、西子幸裕、青木佑未、　Ｅ：服部智美 Ａ：佐野乃雪、　Ｓ：宮村勇希
2018	グループ分け３班（広報班・制作班・マップ班）による輪くぐりさんへの参加、長政まつりの子供向け広場を運営（地面にお絵描き・写真撮影サービスの提供）、１年生に向けた商店街案内＋新たな魅力探し、「東海道おんぱく2019」に参加	
	○平岡義和、川原﨑知洋	Ｍ：水野なな子、吉田慎太郎、加藤秋沙、森智徳、Ｉ：佐藤恵美、西子幸裕、青木佑未 Ｅ：服部智美 Ａ：佐野乃雪、長澤由奈、今西真紀、田中真衣、前田春香、　Ｓ：宮村勇希
2019	輪くぐりさんのチラシ作成、ワークショップ「プラ板でつくろう七夕飾り」企画・運営、長政まつりの子供広場を運営、商店街の報告会（懇親会）に参加	
	○平岡義和、川原﨑知洋	Ｍ：吉田慎太郎、　加藤秋沙、森智徳、　山梨純怜、　Ｉ：青木佑未 Ａ：佐野乃雪、長澤由奈、　今西真紀、田中真衣、前田春香、上倉朋子、高橋美貴、萩原亜祐実、　Ｓ：宮村勇希
2020	まち歩き、浅間通り商店街のマップをリニューアル、PR動画の制作・編集、足元灯のディスプレイ企画立案	
	○平岡義和、川原﨑知洋	Ｍ：加藤秋沙、森智徳、増田未夢、山梨純怜、増田裕奈、三浦真 Ｉ：青木佑未、嶋村安純 Ａ：今西真紀、田中真衣、前田春香、上倉朋子、高橋美貴、萩原亜祐実
2021	まち歩き、足元灯ディスプレイデザインの制作・設置、動画制作・YouTubeに「せんげんFWプロジェクト」のチャンネル開設	
	○平岡義和、川原﨑知洋	Ｍ：増田未夢、山梨純怜、増田裕奈、三浦真、上村崇、　Ｉ：嶋村安純、井出綾乃 Ａ：上倉朋子、高橋美貴、萩原亜祐実、鈴木唯心、柾木彩花
2022	長政まつりの子ども広場を設置、タイの遊びとチョークを使った「地面にお絵かき」の企画を実施、輪くぐりさんでクイズラリーとフォトスポットを企画・運営、インスタグラムの開始、商店街の方へのアンケート調査実施	
	○川原﨑知洋、平岡義和	Ｍ：増田裕奈、三浦真、上村崇、大森彩、鈴木琉斗、　Ｉ：嶋村安純、井出綾乃 Ｅ：藤井陽真利 Ａ：鈴木唯心、柾木彩花
2023	長政まつりでのタイの遊びと「地面にお絵かき」の企画を実施、輪くぐりさんでクイズラリー、フォトスポット、輪くぐりンボーを企画・運営、インスタグラムの活用、商店街の方々に対し報告会の開催	
	○川原﨑知洋、平岡義和	Ｍ：上村崇　大森彩、鈴木琉斗、　Ｉ：井出綾乃、　Ｅ：藤井陽真利 Ａ：鈴木唯心、柾木彩花
2024	輪くぐりさんでクイズラリー、輪くぐりンボーの運営、長政まつりでのタイの遊びと「地面にお絵かき」実施、商店街の方々に対し報告会の開催	
	○川原﨑知洋、平岡義和	Ｍ：大森彩、鈴木琉斗、　Ｅ：藤井陽真利

上級生から新入生へ長政と浅間神社との関係を解説（2020年度）

足元灯の入れ替え作業（2021年度）

輪くぐりさんで「輪くぐりンボー」企画（2023年度）

焼津市　浜通り

地域住民と高校生との交流に基づいた地域づくり活動

（2016年度）浜通りの町並み保存と観光資源化～浜通りフォーラムを母体とした地域再生の実践～
（2017年度）浜通りの人や歴史を活かし、多様な交流を育む服部家を考える

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　太田　隆之

担当した焼津・浜通りフィールドは、場所もテーマも私にとって初めてで、このフィールドを選択した学生の皆さん同様、フィールドワークに取り組みながら私も地域のことを学び、直面する課題の内実やそれらへの取り組みのあり方を考えてきました。浜通り地区のことを学びつつ、エリアの対象も広げながら活動することで地区のことがわかることも経験してきました。

このように手探りで模索しながら取り組んだフィールドワークでしたが、毎年取り組む中で、この地区の特徴は晩夏に開催される「あかり展」に集約されていると感じてきました。私自身も含めて、このフィールドで活動してきた学生は全員「あかり展」に魅了されてきました。準備段階から関わる機会をいただきながら、住民の皆さんの取り組む姿勢を見、当日の通りの雰囲気を感じ、そして来られる多くの来場客の皆さんの様子を見て、地域づくり活動の本質を学ばせてもらってきました。学環の活動は終わりますが、今後も浜通り地区の皆さんと関わりながら、地域づくりの学びを続けていきたいと考えています。

焼津市商工観光課　主査　望月　拓海 様

地域創造学環の学生の皆さまには、「浜通り夏のあかり展」をはじめ、焼津市浜通り地区の活性化に取り組んでいただき、誠にありがとうございました。

浜通り地区のまちづくりを検討するなかで、学生の皆さまに参加いただけたことは、地域の方にとっても新たな視点や気付きを得る機会となり、活動の活性化に繋がる良い刺激となりました。

これからも焼津市、そして「浜通り地区」の活性化に向け、皆さまの鋭い感性と力を存分に活かし、様々な形で地域づくりに関わり続けていただけると嬉しいです。

あかり展のため制作した行灯（2017年度）

あかり展来場者へのアンケート調査（2018年度）

行灯の電球交換作業（2019年度）

あかり展の様子

あかり展・行灯の制作（2023年度）

あかり展（2024年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2016	浜通りまちあるき、行政機関等との話し合い、浜通りまちづくりワークショップへの参加	
	○太田隆之、江口昌克、村田真一	M：佐々木直人、豊住太一、　I：大野美晴、大橋彩香、袴田朋伽、宮澤大己、薮野華奈 A：松永千里、　S：金森彩葉、宮川佑紀乃
2017	「夏のあかり展」への参加・アンケート調査、旧服部家活用のためのワークショップ参加、旧服部家活用のための視察	
	○太田隆之、橋本誠一	M：藤田真由、矢ヶ崎花音、　I：大橋彩香、杉山莉奈、袴田朋伽、宮澤大己 E：大橋和真 A：松永千里、　S：種茂勇斗
2018	「あかり展」への参加、若者ぷらっとホームやいぱるにて聞き取り、焼津水産高校との交流、うみえ～る焼津でのアンケート調査	
	○太田隆之、橋本誠一	M：藤田真由、矢ヶ崎花音、坂井朝陽、宮嶋洋仁、 I：大橋彩香、杉山莉奈、袴田朋伽、宮澤大己、山口桃花、　E：大橋和真 A：松永千里、　S：種茂勇斗
2019	浜通り活性化フォーラムの会議への参加、市のボランティア人材バンクに登録する市内中高生へのアンケート調査と解析、焼津水産高校との交流、「若者政策」に関する講演・学習	
	○太田隆之、橋本誠一	M：藤田真由、矢ケ崎花音、坂井朝陽、宮嶋洋仁、佐々木啓人、武田栞奈、 I：山口桃花、　E：大橋和真 S：種茂勇斗、山口みどり
2020	まち歩き、焼津水産高校とのリモートによるワークショップ	
	○太田隆之、橋本誠一	M：坂井朝陽、宮嶋洋仁、佐々木啓人、武田栞奈、芝原一貴、仲宗根利恵、 I：山口桃花、松本侑 S：山口みどり
2021	浜通りを含むサイクリングコースの体験、伊東市と御前崎市のワーケーションの取り組み見学、ゲストハウス「帆や」の滞在、夜のまち歩き、焼津水産高校の学生とインスタ映えスポット検索	
	○太田隆之、橋本誠一	M：佐々木啓人、武田栞奈、芝原一貴、仲宗根利恵、三村花、　I：松本侑、田畑晴花 S：山口みどり、小名陽日、長瀬裕哉
2022	焼津水産高校とのワークショップ、あかり展の準備および参加、まち歩き	
	○太田隆之、国京則幸	M：芝原一貴、仲宗根利恵、三村花、大石凜里花、　I：松本侑、田畑晴花 A：大澤美潤、宮城羽那、　S：小名陽日、長瀬裕哉
2023	あかり展の準備および開催、焼津市内外との若者と交流と意見・情報交換、「海業振興モデル地区」の沼津市戸田漁港・地域の取り組み調査	
	○太田隆之、国京則幸	M：三村花、　I：田畑晴花 A：宮城羽那、　S：小名陽日、長瀬裕哉、大石凜里花、大澤美潤
2024	「浜通りフェスティバル」への参加・運営、「海業振興モデル地区」である地頭方漁港の取り組みの調査、あかり展への参加	
	○太田隆之、国京則幸	A：宮城羽那、　S：大石凜里花、大澤美潤

やいづ案内人の会のガイド付きまち歩き（2020年度）

「帆や」の見学（2021年度）

焼津水産高校でワークショップを実施（2022年度）

静岡大学
National University Corporation Shizuoka University

浜松市　浜松文芸館

私のまちの文芸世界

（2016～2020年度）　若者の文芸離れを食い止めよう

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　占部　史人

浜松文芸館でのフィールドワークでは、学生たちの様々なアイデアをかたちにして地域の方々と共有することができました。特に2023年に近隣施設の鴨江アートセンターと共催した「Contemporary Haiku Art」は、学生たちの現代アート作品と、浜松文芸館で学んだ俳句を掛け合わせるという斬新な内容の展覧会でした。『若年層の文芸離れ』という浜松文芸館フィールドワーク開始当初から科されてきた課題へのひとつの回答であったと感じております。他にも2018年のポスター作品「ある日息子が俳人になって帰ってきた」や、2019年に設置された「俳句ガチャ」、2022年のワークショップ「吟行deススメ」など、どの企画も地域創造学環の学生らしいフレッシュさが溢れていました。実際にやってみると、思いもかけない失敗や発見が数多くあり、その度に学生たちは逞しく成長していったと思います。学生たちの挑戦を温かい目で見守って下さった浜松文芸館の皆様をはじめ、地域の方々に改めて感謝申し上げます。

公益財団法人浜松市文化振興財団　浜松文芸館長　伊熊　敬一 様

『文芸の楽しさを知ってもらおう』をキーワードに、若い皆さんの感性がもたらす新しい活動が次々と生まれたことが印象に残っています。

例をあげると「ある日息子が俳人になって帰ってきた」というキャッチコピーを創り、浜松やらまいか大使の俳人高柳克弘さんの展示ポスターを作製、「文字モジ探検隊」と題した小学生のワークショップなどがあります。さらに、「俳人（はいと）くん」「ことばちゃん」というキャラクターやガチャガチャを活用した「ガチャ俳句」の誕生など、今も引き継がれている企画があります。ありがとうございました。

学生の皆さんのチャレンジ体験が、今後の人生に生きていくことを祈念しています。

学生が制作した展示ブースの前で（2019年度）

制作した俳句ガチャの設置（2020年度）

学生が作成したチラシ（2020年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2016	クリエート浜松内で文芸館についての聞き取り調査、 文芸館の広告を作成するためのデザイン、キャッチコピーの検討	
	○井原麗奈、渡邊英理、袴田光康、與倉豊、祝原豊	M：望月涼介、I：袴田朋伽 A：松永千里
2017	浜松文芸館を紹介するための広告・ポスターとチラシを作成、ポスターの掲示や チラシの配布・外部への依頼、来年度に向けたイベント企画を考案	
	○袴田光康、井原麗奈	M：大石清香、望月涼介、　I：前島芳郎、　E：伊藤悠希 A：松永千里、古川綾乃
2018	合作俳句を体験できるイベント「チームで挑戦！GOGO俳句」の実施、自分たちで見つけた言葉を用いて オリジナルの物語を作る「文字モジ探検隊」イベント実施、地域創造学環フィールドワーク活動の紹介展示	
	○袴田光康、井原麗奈	M：大石清香、望月涼介、尾本優里香、　I：齋藤紫苑、　E：伊藤悠希 A：松永千里、古川綾乃
2019	小学生高学年向けワークショップ：七夕と俳句をテーマとしたイベント『きらキラ☆575』の実施、 文芸館紹介コーナー：等身大パネルとガチャ俳句の制作	
	○袴田光康、井原麗奈、占部史人	M：尾本優里香、　I：齋藤紫苑、　E：伊藤悠希 A：古川綾乃、半田颯太、松本愛子
2020	合作俳句が体験できる「俳句ガチャ」から出てくる季語カードの作成、クリアファイルの デザイン・作成、チラシの作成、新キャラクター「ことばちゃん」の作成	
	○占部史人、井原麗奈	M：尾本優里香、I：齋藤紫苑 A：古川綾乃、半田颯太、松本愛子、中野真白、増元明日菜
2021	文芸館主催のワークショップに参加、“浜松市内を探索して魅力に感じたものを、俳句として詠む「吟行」”を テーマとしたワークショップを提案、ワークショップ開催に向けての準備・実施・振り返り	
	○占部史人、立花由美子	A：半田颯太、松本愛子、中野真白、増元明日菜、田中奏大
2022	昨年度のイベントをブラッシュアップしたオリジナルワークショップ「吟行DEススメ」の 準備・開催、実施後の振り返り、ショーケースの設置	
	○占部史人、立花由美子	A：中野真白、増元明日菜、田中奏大、臼田奏美、小笠原凜、山本陽大
2023	展覧会「Contemporary（Haiku）Art―現代（俳句）美術―」に向けた準備、チラシ作成、開催	
	○占部史人、立花由美子	A：田中奏大、臼田奏美、小笠原凜、山本陽大
2024	展覧会「Contemporary（Haiku）Art―現代（俳句）美術―」の様子のまとめ「図録」の 制作（冊子の内容決め、予算のすり合わせ、作品の解説文作成、冊子デザインの作成）	
	○占部史人、立花由美子	A：臼田奏美、小笠原凜、山本陽大

吟行でススメ！イベント（2021年度）

オリジナルマップDEススメ！イベント（2022年度）

展覧会『CONTEMPORARY（HAIKU）ART』〈現代（俳句）美術〉（2023年度）

静岡大学
National University Corporation Shizuoka University

浜松市　佐久間町

交流の輪づくり～新たな関係構築～

（2016年度）中山間地域の地域再生実践～高齢者支援・都市農村交流・特産品開発
（2017年度）中山間地域の地域再生実践
（2018年度）商品開発で交流の環づくり（2019年度～2020年度）暮らし体験で交流の環づくり

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　祝原　豊

佐久間地区は、静岡市にある静岡大学から車で約100分の距離に位置しており、現地でのフィールドワークを気軽に行うことは難しい地域です。そのような状況の中で、中山間地域の再生に高い意識を持つ学生たちが集まり、活動を行ってきました。

まず、取り組みの第一歩として「佐久間地区をよく知ること」をテーマに掲げ、町並みや民族文化、豊かな自然、各種の地域おこし事業やイベントなど、多岐にわたる体験をさせていただきました。地域の皆さまの温かいご支援のおかげで、佐久間の魅力を肌で感じることができました。

2016年から年度ごとに、学生主体で地域課題の解決に向けた様々な取り組みを行ってきましたが、活動開始当初から変わらず、地域の方々やコーディネーターの皆さまが親身にサポートしてくださったことが、学生たちの心に強く残っています。

このフィールドワークでは、あふれる佐久間の魅力を学生の視点でまとめた広報誌『サクっとさくま』の制作や、SNSでの情報発信を行いました。さらに、地区内外の人々をつなぐ交流の輪を広げる取り組みも企画・実践し、佐久間の今後の発展の一助になればと考えています。

最後に、この活動に関わってくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

NPOが整備を検討する移住・交流施設を見学（2017年度）

さくっと佐久間取材（佐久間神社）（2019年度）

学生がvo.1～16まで作成した「さくっと佐久間」

そば打ち体験会参加者に聞き取り（2016年度）

ごまちゃんづくり体験（2017年度）

アワビの陸上養殖作業体験（2018年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2016	佐久間のまちあるき、そばの花鑑賞会・佐久間そば試食会参加、住民への聞き取り調査、縁側カフェ／民俗文化伝承館との交流、行政と地域おこし協力隊の方々と報告会開催	
	○山本崇記、江口昌克、河合学	M：伊神翔央汰、木下湧太、佐々木直人、　I：大野美晴、佐藤恵美、薮野華奈 S：加藤楓、藤浪茉央
2017	アワビ養殖作業を体験、佐久間ダム竜神まつりなどのイベント参加、情報発信のため情報誌「サクッとさくま」の発行決定、「サクッとさくま」の掲載スポットを取材、パンプキンレディースさんと活動	
	○皆田潔、江口昌克、河合学、山本崇記	M：伊神翔央汰、木下湧太、佐々木直人、　I：大野美晴、薮野華奈、末広皐 E：清水大暉　S：加藤楓、藤浪茉央
2018	パンプキンレディースが製造するお菓子「ごまちゃん」のアレンジを加えた新商品の開発販売に関する取り組み、イベント会場での試作品販売、学生の制作する広報誌「サクッとさくま」の発行	
	○皆田潔、江口昌克、河合学、山本崇記	M：伊神翔央汰、木下湧太、佐々木直人、　I：大野美晴、薮野華奈、末広皐、新井七津奈 E：清水大暉 S：加藤楓、藤浪茉央、魚住和未、籠谷遥
2019	暮らし体験・イベントへの参加／こんにゃくづくり、山菜取り、竹細工、農業体験、フェスタ佐久間での運営補助、ザ・山フェスへの参加（ごまちゃんの販売）、サクッとさくまの7号、8号作成・配架	
	○皆田潔、江口昌克、河合学、山本崇記	M：清水良香、　I：末広皐、新井七津奈、伊藤響、河合美智香、　E：清水大暉 A：服部翔子、　S：魚住和未、籠谷遥
2020	サクッとさくまの９号、10号作成、インスタグラムの開設、地図の作成、佐久間の歴史を知るため週一度の読書会、各自ごまちゃん・ごまぴ製作	
	○江口昌克、河合学、山本崇記、川﨑和也	M：清水良香、齋藤しずく、竹田有那、　I：新井七津奈、伊藤響、河合美智香 A：服部翔子、落合歩美、　S：魚住和未、籠谷遥
2021	「交流の輪づくりー新たな関係構築ー」をテーマに、イベント参加やインタビュー実施、佐久間の魅力スポット巡り、サクッとさくま・地図、ポスターの制作、SNSでの広報	
	○河合学、江口昌克、祝原豊、山本崇記	M：清水良香、齋藤しずく、竹田有那、　I：伊藤響、河合美智香、河野茉奈 A：服部翔子、落合歩美、大草実優、眞野瑶子
2022	URAKAWA Oldies Festivalへの参加（運営補助）、アワビの貝殻を使ったシャカシャカカード作りのワークショップの企画・開催、サクッとさくまの制作、SNSでの広報	
	○祝原豊、江口昌克、正木祐史、板倉美奈子	M：齋藤しずく、竹田有那、桑名瞭徳、　I：河野茉奈、金城奈津希 A：落合歩美、大草実優、眞野瑶子、大木琴寧、佐藤萌
2023	「秘密基地いもほり」でイベント企画・運営の手伝い、サクッとさくまの制作・配布、浦川周辺地域のまち探検、パンプキンレディースさんとごまちゃんづくり、佐久間やごまちゃんについてインタビュー	
	○祝原豊、江口昌克、正木祐史、板倉美奈子	M：桑名瞭徳、　I：河野茉奈、金城奈津希 A：大草実優、眞野瑶子、大木琴寧、佐藤萌
2024	パンプキンレディースさんとの活動、川合花の舞への参加、浜松湖北高校佐久間分校での地域学授業に参加、サクッとさくまの制作、広報活動（ホームページの開設）	
	○祝原豊、江口昌克、板倉美奈子、正木祐史	M：桑名瞭徳、　I：金城奈津希 E：大木琴寧、佐藤萌

里芋の収穫体験（2019年度）

森の秘密基地　イベントサポート（2023年度）

川合花の舞に参加（2024年度）

静岡大学
National University Corporation Shizuoka University

田園空間博物館　南遠州とうもんの里

子どもたちを呼び込むための環境づくり

（2016年度）とうもんの里を中心にした横須賀地区のまちおこし
（2017年度）産地直売施設運営と交流人口拡大
（2018年度～2019年度）子どもを呼び込むための環境づくり

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　川﨑　和也

とうもんの里フィールドは、掛川市の南西部にある「遠州南部とうもの里総合案内所」を拠点にして、NPO法人とうもんの会や蓮舟寺の皆さんをはじめとする地域住民の方々の協力を得ながら、2016年度より活動を続けてきました。とうもんの里総合案内所の周囲に広がる「とうもん」と呼ばれる美しい田園風景は、長年、地域で育まれてきた地域の大切な宝物です。地域の皆さんは、地域の歴史や文化とともに、その美しい風景を次世代に伝えてゆくための様々な活動に取り組んでいます。

学生たちは「子どもたちを呼び込むための環境づくり」をテーマに掲げて、毎年11月に開催する「キッズフェス」でのイベントの企画と運営に取り組んできました。とりわけ、フィールドワークで大切にしてきたことは、学生たち自身が、五感を使って、地域の自然や歴史、文化を直接体験し、その魅力をかたちにすることです。横須賀のまち歩き、田んぼの生き物調査、地域の食材を使った食事づくりなど、学生たちは、普段では体験できない多くのことをここで経験しました。これらは、学生たちにとってかけがえのない貴重な経験であり、彼らの人生の大きな財産だと信じています。

NPO法人とうもんの会　理事　名倉　光子 様

「静岡大学の学生さんのフィールドワークを、受けてもらいたいのですが。」

中遠農林事務所からの声掛けで始まりました。何をするのか、学校も学生も私達もわからず、試行錯誤の日々。２年３年とフルメンバーになり、いいチームになっていった「Keymon」はとうもんのキーマンになりたいとの、学生の思いから付けられました。

40名の個性豊かなKeymonの残した足跡は、とうもんに確かにあります。

たかが８年、されど８年　そしてこれからも…

わらのクッションをつくる１年生（2017年度）

竹遊具づくりの様子（2018年度）

藁小屋のブランコの製作（2019年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、Ｉ：地域共生、Ｅ：地域環境・防災 Ａ：アート＆マネジメント、Ｓ：スポーツプロモーション
2016	とうもんの里イベントの経営の手伝い、みかん狩りでのイベント企画と実施、藁小屋づくりの内装のアイデアと製作、看板製作の企画案、地域住民へ地域の課題についての調査、横須賀地区のまちあるき	
	○日詰一幸、八柳祐一、橋本誠一	Ｍ：大石清香、豊住太一、水野なな子、　Ｅ：服部智美 Ａ：黒田亜沙未、唐坂梨紗子、萩原亜美、平田あかり、 Ｓ：海野真由、金森彩葉、小西涼奈、佐藤まどか、嶋村浩直、七海遥喜、宮川佑紀乃
2017	とうもんの里の行事「ふるさとの道ウォークとみかん狩り」でのイベント企画、「しぜんの図書館」の実施、遊具の設置、「とうもん図鑑」への取り組み、広報活動	
	○日詰一幸、石川宏之	Ｍ：豊住太一、久保山健太、　Ｉ：濱嶋ななみ Ｓ：海野真由、金森彩葉、小西涼奈、佐藤まどか、七海遥喜、宮川佑紀乃、多治見帆香、萩原那緒
2018	とうもんの里に子ども呼び込むための環境づくりを目的に資自然を利用した遊具の製作、故郷の道ウォークとミカン狩りの運営とイベント企画、イベント「とうもん図鑑」の実施、イベントのチラシ作成	
	○日詰一幸、石川宏之、川﨑和也	Ｍ：豊住太一、久保山健太、朝倉大翔、Ｉ：溝下紗里奈、宮地珠妃 Ａ：濱嶋ななみ、星野未佳 Ｓ：海野真由、金森彩葉、小西涼奈、佐藤まどか、七海遥喜、宮川佑紀乃、多治見帆香、萩原那緒
2019	キッズフェス（チョークアート）、七夕まつり、とうもん図鑑イベント、きーもんらんど（自然に触れるきっかけづくり・クイズ、スポーツ、音楽のブースを提供）、イベントの企画・実施、子ども達の観察	
	○日詰一幸、石川宏之、川﨑和也	Ｍ：久保山健太、朝倉大翔、矢五田萌加、　Ｉ：溝下紗里奈、宮地珠妃、秋山航、清水彩香 Ａ：星野未佳、芳村日苗 Ｓ：海野真由、嶋村浩直、多治見帆香、萩原那緒、漆畑奈々花
2020	ミッションクリアし、親子でとうもんマップを完成させるイベント「とうもんらんど」の企画・準備・実施、とうもんの里での買い物動向調査、遊び道具のメンテナンス	
	○日詰一幸、池田恵子、川﨑和也	Ｍ：朝倉大翔、矢五田萌加、　Ｉ：溝下紗里奈、宮地珠妃、秋山航、清水彩香、生駒亮仁 Ｅ：村岡蒼太 Ａ：星野未佳、芳村日苗、舟山海里、　Ｓ：嶋村浩直、漆畑奈々花、宮本幸輝
2021	地域理解・地域資源の探究『夏色ウォーク』（とうもんの里の歴史や自然について学ぶ）、とうもんの里の周辺に生息する生き物や植物を調査、イベント企画の構想、準備、『とうもん図鑑』イベントの実施	
	○川﨑和也、池田恵子	Ｍ：矢五田萌加、川野桂汰、　Ｉ：秋山航、清水彩香、生駒亮仁、阿部ひなた、Ｅ：村岡蒼太 Ａ：芳村日苗、舟山海里、　Ｓ：嶋村浩直、漆畑奈々花、　宮本幸輝、三國花、宮下真彩
2022	遊び道具の修繕、キッズフェスの企画・準備（チョークアート、工作、玉入れ、フォトフレーム、カードゲーム、など）、個人の探求活動、活動報告会	
	○川﨑和也、池田恵子、彭宇潔	Ｍ：川野桂汰、岩田啓佑、西村愛未、　Ｉ：生駒亮仁、阿部ひなた、今西志帆、Ｅ：村岡蒼太 Ａ：舟山海里、石上すみれ、　Ｓ：宮本幸輝、三國花、宮下真彩、市川菜々
2023	夏のキッズフェスの企画・開催（夏休みの宿題のサポート、そうめんでランチ、外で水遊び）、秋のキッズフェス準備・開催（チョークアート、工作、輪なげ、音楽、田んぼアート）、アンケート調査・分析	
	○川﨑和也、池田恵子、彭宇潔	Ｍ：川野桂汰、岩田啓佑、　Ｉ：阿部ひなた、今西志帆、西村愛未 Ａ：石上すみれ、　Ｓ：宮下真彩、市川菜々
2024	夏休み中の小学生・未就園児を対象としたイベント「夏のキッズフェス」の企画・開催、秋のキッズフェス準備・開催・他団体との連携	
	○川﨑和也、池田恵子、彭宇潔	Ｍ：岩田啓佑、Ｉ：今西志帆、西村愛未 Ａ：石上すみれ、　Ｓ：市川菜々

キッズフェス（2020年度）

田んぼの生き物調査の運営の手伝い（2022年度）

秋のキッズフェス（2024年度）

静岡大学
National University Corporation Shizuoka University

御前崎市 （2018年度～）

御前崎スポーツ振興プロジェクト~スポーツによる交流人口の拡大と産業振興の推進~

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　平嶋　裕輔

私は３年間、地域創造学環のフィールドワークに関わりましたが、このフィールドワークは学生にとって貴重な学びの場であるだけでなく、私自身にとっても大きな学びの機会となりました。

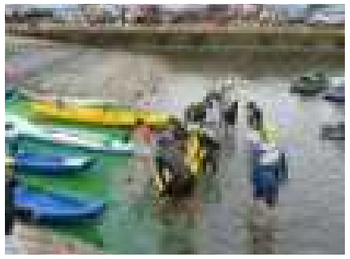
１年目は、主担当の先生方のサポートを行い、２年目からは自分が主担当教員となり、フィールドワークの運営を担う立場となりました。当時の学生たちは主体的に取り組む姿勢が十分とは言えず、「インクルーシブフェスタ」や「モルック体験」など新しい企画に挑戦したものの、どこか人任せな印象が残りました。その反省を踏まえ、最終年度は学生とのミーティングを重ね、「御前崎市に喜ばれる活動をしたい」「地域に貢献したい」という共通の思いを確認しました。その結果、御前崎市制20周年記念の「干し芋プロジェクト」への参加が決まりました。プロジェクトでは干し芋の歴史や御前崎との関わりについて文献調査を行い、干し芋農家さんへのインタビューを通じて、干し芋づくりの思いや地域への愛着を伺いました。また、畑でのさつまいも掘りを体験し、地域の営みに対する敬意が深まりました。さらに、御前崎市役所の方から干し芋の歴史を学び、元静岡大学教授で現御前崎市長の下村市長へのインタビューも実現し、地域の未来像を学ぶ貴重な機会となりました。これらの成果は秋のイベントでポスター掲示として発表され、来場者に干し芋の魅力を紹介するだけでなく、御前崎市についても教えていただく貴重な時間となりました。フィールドワークを通じて、学生と地域に深く関わり、私自身も多くの学びを得ることができました。今後もこの経験を活かし、地域と大学の連携を深めていきたいと考えています。

御前崎市　総務部総務課　秘書広報係　　出野　浩平 様

フィールドワークを実施する中で、地域創造学環の皆さんが、スポーツを通じた地域との交流や市外への魅力発信に熱心に取り組んでくださいました。

昨年は干し芋プロジェクトに参加いただき、御前崎市の特産品である干し芋の魅力を伝えるため、歴史調査や生産者へのインタビュー、パネル発表等、様々なことに全力で取り組んでいただきました。

何事にも積極的に挑戦する姿が印象的で、皆さんの活動が御前崎市の魅力をより引き出してくれたと思います。今後も皆さんらしく様々な活動に取り組んでいただければと思います。



マリンフェスタの運営業務（2019年度）

「おまえざきサイクラリー」実施（2020年度）

フライングディスク体験会（2021年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2018	御前崎NEXTAフィールドの視察、あらさわふる里公園、浜岡砂丘、御前埼灯台、なぶら市場の視察、御前崎市役所での学生考案の企画「全国から大学生を集めるための企画」等発表	
	○村田真一、水谷洋一、川崎和也	M：齋藤あい、　I：中野希音 S：遠藤千懐、小西玲衣奈、萩原琢麻、平田直也、松井小春
2019	御前崎市に大学生を呼び込むための企画イベントの実施／マリンスポーツフェスタ、御前崎市合宿型フィールドワーク、U-14御前崎ネクスタカップ2019（キックターゲットの企画・実施）	
	○川崎和也、水谷洋一、村田真一	M：齋藤あい、　I：中野希音 A：永島幸奈 S：遠藤千懐、小西玲衣奈、萩原琢麻、平田直也、松井小春、島田朱諒、辻夢美、間下桃子
2020	御前崎市役所訪問（イベント実施のための準備、話し合い）、御前崎市内調査、おまえざきサイクラリーイベントの企画・実施	
	○川崎和也、水谷洋一、村田真一	M：齋藤あい、川村優和、杉山愛、脇坂大隆、　I：中野希音 A：永島幸奈 S：遠藤千懐、小西玲衣奈、萩原琢麻、平田直也、松井小春、島田朱諒、辻夢美、間下桃子、府川駿介、宮崎絢士郎
2021	フライングディスク体験会の企画・運営、意見交換会、アンケートの実施、マリンスポーツフェスタの業務サポート、御前崎市についての学習（御前崎市内巡り）	
	○川崎和也、水谷洋一、村田真一	M：川村優和、杉山愛、脇坂大隆、伊東錠太朗 A：永島幸奈 S：島田朱諒、辻夢美、間下桃子、府川駿介、宮崎絢士郎、石川青空、鈴木壮悟、三谷柊次
2022	フットゴルフ体験、マリンスポーツフェスタの運営補助、ストライダー・エンジョイ・カップの運営ボランティア、SNSによる御前崎市の魅力についての情報発信	
	○川崎和也、水谷洋一、平嶋裕輔	M：川村優和、杉山愛、脇坂大隆、伊東錠太朗 A：永島幸奈 S：府川駿介、宮崎絢士郎、石川青空、鈴木壮悟、三谷柊次、勝亦彩乃、小出康士郎、横山透真
2023	マリンスポーツフェスタの運営補助、インクルーシブフェスタ「みんなで楽しむサッカー教室」企画・運営、「ぷるる桜まつり」での出店（モルックの体験ブース設置・eスポーツ体験会）	
	○平嶋裕輔、水谷洋一、川崎和也	M：伊東錠太朗 S：石川青空、鈴木壮悟、三谷柊次、勝亦彩乃、小出康士郎、横山透真
2024	「干し芋プロジェクト」に参画（干し芋農家の方へのインタビュー、下村市長へのインタビュー、御前崎市大産業まつりでのブース出店・ポスター展示）	
	○平嶋裕輔、水谷洋一、川崎和也	S：勝亦彩乃、小出康士郎、横山透真

「フットゴルフ」を体験（2022年度）

インクルーシブフェスタ　みんなで楽しむサッカー教室（2023年度）

御前崎市長にインタビュー（2024年度）

静岡大学
National University Corporation Shizuoka University

松崎町　商店街

なまこ壁が残る松崎町商店街のにぎわい創出

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　牛塲　智

近年、大学においても課題解決型学習が推進され、地域課題解決への社会実装が目指されるケースが多いのですが、アイデア創出までが現実的な目標になってしまいがちです。しかし学環フィールドワークでは、長期的な実践を行うことができる授業設計となっているため、松崎町商店街でも商店街のパンフレット作成やコミュニティスペース作りといった取り組みを行うことができました。

商店街のパンフレット作成では、地域のアクターからのフィードバックを受けて配架場所を町外にも広げ、その過程で様々な交渉を行い学生自身のさらなる学びへとつなげることができました。またコミュニティスペース作りでも、地域の教育機関などとの連携にあたり、対話の重要性を学ぶことにつながりました。

担当教員自身もある種のプロジェクトマネージャーとして、理論と実践の架橋という経験を積むことができました。今後は、学環フィールドワークでの経験を踏まえて、研究や学生指導にあたりたいと思います。

松崎町長　深澤　準弥 様

松崎町は、地域創造学環設立時からの関係をいただき、感謝しております。歴代の学生とのご縁も今も続いていて、中には結婚の報告を兼ねて再訪してくれる学生もおり、心から感動し、受け入れて良かったと思います。フィールドワークによって人として成長していく姿をそばで見られ、地域も元気になっていく素晴らしい機会でした。地域創造学環はなくなりますが、松崎町は消滅しないので引き続きフィールドワーク等よろしくお願いします。

商店街の店主の皆様との意見交換を行った（2016年度）

秋祭りの手伝い（2017年度）

棚田のライトアップイベント準備（2018年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、Ｉ：地域共生、Ｅ：地域環境・防災 Ａ：アート＆マネジメント、Ｓ：スポーツプロモーション
2016	商店街関係者へのヒアリング調査を実施し、情報収集、地域の人に発表し、意見の共有、周辺ジオツアー・地元住民との意見交換	
	○阿部耕也、原田賢治、小山眞人、太田隆之	Ｍ：和泉直人、伊藤純平、遠藤有紗、影山舞、本田圭美、　Ｉ：杉山莉奈、　Ｅ：杉山尚暉 Ａ：井口紗那、大澤七彩、鈴木夏帆、 Ｓ：岩崎彩音、加藤鉄平、岸野泰知、坂井宏輔、塩崎陽也
2017	桜葉収穫体験、まち歩き（石部、雲見方面）・シェアサイクルの利用（堂ヶ島）、秋祭り参加（地域巡回、三番叟、片づけ等）、松崎高校との交流会	
	○阿部耕也、佐藤直樹、杉山康司、皆田潔	Ｍ：和泉直人、遠藤有紗、影山舞、本田圭美、長田結衣、　Ｉ：望月南緒 Ｓ：吉澤公史、黒墨世菜
2018	石部の棚田あかり展の手伝い、商店街の店舗への聞き取り調査、松崎中学校、松崎高校との交流（ワークショップ）	
	○阿部耕也、杉山康司、皆田潔、牛塲智	Ｍ：和泉直人、遠藤有紗、影山舞、本田圭美、長田結衣、中西花、宮本彩名 Ｉ：望月南緒、大谷知 Ａ：柚木真里奈、　Ｓ：吉澤公史、黒墨世菜
2019	松崎高校文化祭での静大ブース設置（松崎町おすすめスポットのマップ制作、地域創造学環・松崎町フィールドワークの紹介など）、松崎町内店舗調査、松崎町ＰＲコンテストの準備、観光パンフレットの作成	
	○牛塲智、阿部耕也、杉山康司、皆田潔	Ｍ：長田結衣、中西花、宮本彩名、金瀧芽生、菅野惇 Ｉ：望月南緒、大谷知、海老名香凜、辻村圭吾 Ａ：柚木真里奈、　Ｓ：黒墨世菜
2020	Zoomミーティング（行政や観光協会、地域おこし協力隊の方との打合せ、サスティナブル・ツーリズムを目指すため、企画案の提案）、松崎高校生と商店街の店舗調査	
	○牛塲智、阿部耕也、杉山康司	Ｍ：中西花、宮本彩名、金瀧芽生、菅野惇、山本みう Ｉ：大谷知、海老名香凜、辻村圭吾、高橋奈那 Ａ：稲垣望美
2021	まち歩き、パンフレット作成に向けた商店街の店舗へのインタビュー調査、パンフレットの作成	
	○牛塲智、阿部耕也、杉山康司	Ｍ：金瀧芽生、菅野惇、山本みう、佐藤快成 Ｉ：海老名香凜、辻村圭吾、高橋奈那、赤井佑奈、冨樫みさと、村宮汐莉 Ａ：稲垣望美
2022	商店街のパンフレット「てんしゅさんぽ」完成・配架、高校生との協働プロジェクト「高校生の居場所づくり」への取り組み	
	○牛塲智、阿部耕也、杉山康司	Ｍ：山本みう、佐藤快成、松岡大輝 Ｉ：高橋奈那、赤井佑奈、冨樫みさと、村宮汐莉、古田采音 Ａ：稲垣望美、梅田夏希
2023	高校生の居場所づくりに向けた活動（せんとの整備、棚・机・本等の不用品回収・高校生とリアカーで住宅訪問、住民の方との交流、せんとの周知）、松崎高校部活動とのコラボ依頼	
	○牛塲智、阿部耕也	Ｍ：佐藤快成、松岡大輝、　Ｉ：赤井佑奈、冨樫みさと、村宮汐莉、古田采音 Ａ：梅田夏希
2024	コミュニティスペース「PRESENT」の開設プレオープンイベント・コミュニティカフェを実施、松崎高校の探究活動「西豆学」への参加、「まちのお気に入りマップづくり」の作成	
	○牛塲智、原田賢治、太田隆之	Ｍ：松岡大輝、　Ｉ：古田采音 Ａ：梅田夏希

学生制作パンフレット（2022年度）

移動知事室の参加（2022年度）

地域における交流場所の準備（2023年度）

松崎高校の探究学習（西豆学）に参加（2024年度）

静岡大学
National University Corporation Shizuoka University

松崎町　観光と防災

防災と観光の両立

（2016年度）松崎町の観光と防災

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　原田　賢治

2016年から８年間にわたり、静岡県松崎町にて観光と防災に関するフィールドワークを実施させていただきました。この間、松崎町の皆様には多大なるご協力をいただきながら、学生と共に地域課題の解決に向けた実践的な取り組みを学ぶことができました。多年にわたる温かいご支援に対し、深く感謝申し上げます。

観光産業を主力とする松崎町において、「観光振興」と「防災対策」は一見相反する課題のように見えるかもしれません。しかし、これらは地域存続のためにはどちらも欠かせない重要な課題です。学生たちには、この二つの課題を複眼的な視点からその調和と解決策を検討してもらいました。フィールドワーク活動では、学生自らがプロジェクトリーダーとなり、活動方針決定から計画立案までを主体的に行う手法を重視しました。準備不足や学術的な深掘りが十分でない場面もありましたが、学生が実際に現地へ足を運び、自分の目で見て課題に向き合った経験は、大きな学びになったと確信しています。

今後も、この地域創造学環での知見を活かし、研究や教育活動をさらに進めてまいります。

松崎町　総務課消防防災係　渡邉　明浩 様

令和６年度に静岡大学の学生さんたちと、防災に関するフィールドワークに関わらせていただきました。学生のみなさんと避難ビルに登り避難時間の計測をしたり、また、地区の区長や防災委員の方々との意見交換をしたりと、様々な活動に関わらせていただきました。学生さん達の熱心な活動によりいただいた多くの課題や提案は、今後の町の防災施策に活かしていきたいと思っています。短い期間でしたが、本当にありがとうございました。

枯野公園の海底火山噴出物の見学（2017年度）

西区で津波避難訓練に参加（2018年度）

松崎町の津波避難訓練での学生からの説明（2019年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2016	津波浸水区域に位置する松崎町商店街のまちあるきとヒアリング、ジオツアーに参加、石部、岩地の地区長へのヒアリング、津波対策地区協議会へ参加、行政へのヒアリング、低地の視察	
	○岩田孝仁、阿部耕也、原田賢治、小山眞人、太田隆之、水谷洋一、杉山康司	E：梅田和典、太田智輝 S：吉澤公史
2017	土肥にて防災に関する集会に参加、区長、豊崎ホテルの方へのインタビュー、南伊豆での発表会、３日間に渡り松崎地区と岩地地区にてインタビュー調査	
	○原田賢治、岩田孝仁、小山眞人	M：中山理紗、　E：太田智輝、杉山尚暉、勝谷勇介 A：中村実李
2018	石部の棚田あかり展の手伝い、三世代交流イベント開催、松崎高校、西区の区長さんと地区の避難訓練についての話し合い、松崎町秋祭りへの参加、避難訓練準備と実施	
	○原田賢治、岩田孝仁、小山眞人	E：太田智輝、杉山尚暉、勝谷勇介、平江夏樹 A：中村実李
2019	避難訓練の見学（一部の地区で行われる住民の避難訓練での様子を観察）、海岸沿いで観光客にヒアリング調査、松崎町住民の防災に関わる調査・３地区長と話し合い	
	○原田賢治、岩田孝仁	E：勝谷勇介、平江夏樹、更家優和、那須野智大 A：中村実李
2020	クチコミ防災マップの作成、配布、観光情報＋防災情報を合わせた観光看板案の制作、避難訓練での防災講座の実施	
	○原田賢治	M：橋ヶ谷有沙、　E：平江夏樹、更家優和、那須野智大、田丸結珠 A：中村実李、川嶋梨々花
2021	観光防災マップの作成、松崎小学校でDIG、松崎中学校でHUGの防災講座に参加	
	○原田賢治、山本隆太	M：橋ヶ谷有沙、桂木健伸、木下皓貴、　E：更家優和、那須野智大、田丸結珠 A：川嶋梨々花、　S：山下笑花
2022	「まつざき魅力発見！webスタンプラリー」準備・開催、インスタグラムの開設（観光・防災情報の発信）	
	○原田賢治、山本隆太	M：橋ヶ谷有沙、桂木健伸、木下皓貴、　E：田丸結珠、前川愛依、吉田さくら A：川嶋梨々花、廣沢希実、　S：山下笑花
2023	「伊豆の桑葉パウダーそば・うどん」の商品パッケージ案作成、調査活動（2030松崎プロジェクト中間発表への参加、松崎町役場との話し合い、松崎町の避難場所の視察）	
	○原田賢治、山本隆太	M：桂木健伸、木下皓貴、　E：前川愛依、吉田さくら A：廣沢希実、　S：山下笑花
2024	「伊豆の桑葉パウダーそば・うどん」の商品パッケージの刷新、松崎町の津波避難に関する調査活動	
	○原田賢治、山本隆太	E：前川愛依、吉田さくら A：廣沢希実

中学生と一緒に避難所運営ゲーム（HUG）（2021年度）

「まつざき魅力発見！webスタンプラリー」スタンプ設置（2022年度）

津波避難場所についての現地確認（2023年度）

静岡大学
National University Corporation Shizuoka University

東伊豆町　（2017年度～）

新しい観光スタイルの発掘・創出プロジェクト

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　阿部　耕也

東伊豆フィールドは、開始当初からいくつかの幸運に恵まれました。町が大学との連携に意欲的だったこと、実際に多くの大学生が町に入り活動を展開していたこと、中でも中心的だった芝浦工業大学関係者がＮＰＯを立ち上げ、フィールドワークの受け入れを担当してくれたことです。

学生時代から東伊豆に関わってきた代表者の荒武優希さんは、地域の課題と可能性の双方を把握した上で、学環生が地域に入り、そこから学び、様々な方々の協力を得ながら課題に取り組むための環境と仕掛けをご用意くださいました。それは手厚いサポートではありましたが、同時に、学生たちが自ら課題に取り組み、主体性を発揮しないと越えられないハードルを課すような、学生たちの成長を促す働きかけでもありました。

学生たちもそうした支援と試練に応え、基本的コンセプトを絶えず確認し、様々な活動を地域の方々と企画し、稲取高校など地域の学校とも連携しながら取り組みを積み上げてきました。毎年の活動実績が示すように、決められた時間以上に東伊豆に出かけ、コロナ期でもリモートを織り交ぜながらフィールドワークを継続しました。学生たちのやる気と成果に敬意を表するとともに、彼らを受け入れ、伴走くださった地域の皆様に改めて感謝申し上げます。

最終年度のフィールドワークでは、これまで培われたつながり・ネットワークが引き継がれる仕組みづくりにトライしました。卒業生の何人かは、例えば地域おこし協力隊として、フィールドワークのサポーターとして、地域の活性化を担う会社の一員として、東伊豆で活動を継続しています。学環フィールドワークはひとまず閉じられましたが、つながりは可能性として残されています。今後の発展を祈念しています。

合同会社so-an　代表社員　荒武　優希 様

東伊豆フィールドワークを共にした７年間、ご担当の阿部先生にはたくさんのわがままを聞いていただきました。

お陰様でフィールドワークでご一緒してきた活動も当初想像もしなかった地点まで到達しました。

フィールドワークで積み重ねたものは、その他たくさんの地域へ関わってきた人々の想いと混ざり合い、今も地域でチャレンジする人たちの豊かな土壌となっています。大変お世話になりました。ありがとうございました。

「ハートプロジェクトin東伊豆」フォトコンテストの様子（2017年度）

東伊豆未来会議（2019年度）

１年生を迎えてまち歩き（2020年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　M：地域経営、Ｉ：地域共生、Ｅ：地域環境・防災 Ａ：アート＆マネジメント、Ｓ：スポーツプロモーション
2017	まち歩き・名所めぐり、フォトコンテストの企画・準備、「ハートプロジェクトin東伊豆」の開催、SNSでの発信	
	○阿部耕也、皆田潔	M：池田橘平、小山莉乃、増田彩香 A：梅田留奈
2018	空き店舗・通りの賑わい創出イベント『雛フェス』への準備・出店（ハーバリウムの製作）、ライブペイントの実施	
	○阿部耕也、皆田潔、牛塲智	M：池田橘平、小山莉乃、増田彩香、土橋もも、星野海輝也 A：梅田留奈、河村清加
2019	東伊豆町稲取を舞台にしたRPG風オリエンテーション（ゲーム性のある町歩き）『INATORI　QUEST』実施、雛フェスワークショップ（ライブペイント・フォトフレーム作り）	
	○阿部耕也、皆田潔	M：池田橘平、小山莉乃、増田彩香、土橋もも、星野海輝也、大石竜弘、増田実奈 A：梅田留奈、河村清加、　S：内藤由里子
2020	東伊豆学生サミット（オンライン）、回覧板で配布されているダイロク通信に静大フィールドワークレポートを執筆、東伊豆町通信インタビューのお手伝い、東伊豆未来会議2021に参加	
	○阿部耕也、牛塲智	M：土橋もも、星野海輝也、大石竜弘、増田実奈、中垣乃彩、　Ｉ：竹下智也 A：河村清加、石田百香、　S：内藤由里子
2021	稲取を拠点に活動するプレイヤー（出店者）さんと東伊豆で暮らす人々をつなげる街歩きイベント「キンメナーレ」実施、ミッション遂行型宝探し「いなとりパズル」実施、稲取高校交流イベント、東伊豆学生サミット	
	○阿部耕也、牛塲智	M：大石竜弘、増田実奈、中垣乃彩、池田康太、高野美羽音、山田海斗、　Ｉ：竹下智也 A：石田百香、　S：内藤由里子、北嶋茉智
2022	「何でも屋」（地元に根付く和菓子屋、町役場、農家のお手伝い）、成立学園高校との合同フィールドワーク、「NEWHAKU」（朝市前の看板・ライブペイントに代わる作品の作成）	
	○阿部耕也、牛塲智	M：中垣乃彩、池田康太、高野美羽音、山田海斗、菊地美瑚、佐藤正樹、　Ｉ：竹下智也 A：石田百香、入井優希奈、竹田朱里、　S：北嶋茉智、森千紘
2023	朝市前看板の作成、シャッターアートの作成、「東伊豆魅力発見大学校」を企画・実施、成立学園高校との合同フィールドワーク	
	○阿部耕也、牛塲智	M：池田康太、高野美羽音、山田海斗、佐藤正樹、　Ｉ：菊地美瑚 A：入井優希奈、竹田朱里、　S：北嶋茉智、森千紘
2024	Green　Forest　festivalの参加、「東伊豆魅力発見大学校」の反省会・振り返り、巻き上げ機3体のペイント、最後のイベント「東伊豆大会議」の企画・実施	
	○阿部耕也、山本隆太、内山智尋	M：佐藤正樹、　Ｉ：菊地美瑚 A：入井優希奈、竹田朱里、　S：森千紘

学生が制作したまちあるきイベント「キンメナーレ」（2021年度）

“NEWHAKU”を港の朝市壁面に設置（2022年度）

船舶の巻き上げ機小屋のペイント（2024年度）

伊豆半島全域（ジオパーク）（2017年度～）

地域づくりとジオパーク

（2017年度）ジオパークガイドと連携して開発する伊豆半島ジオパーク教育プログラム
（2018年度～2022年度）伊豆半島ジオパークの持続可能な開発と教育（SDGs／ESD）の推進

※2017年度開始～2022年度「伊豆半島ジオパーク・教育」、2023年～2024年度「伊豆半島全域」（ジオパーク）という名称区分

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　山本　隆太

このフィールドワークは2017年度に伊豆半島ジオパークと連携して開始しました。
初年度は火山学の小山眞人先生と学生を引率し、伊豆半島の地形や文化を学びましたが、当初は火山を小山先生から学ぶ貴重な機会でした。2018年度以降は地域創造学環の理念である「地域のクリエイティブリーダー育成」を踏まえ、地理学、地理教育をベースとしたSDGsとその教育を視野に入れ、学生主体の活動を軸に展開しました。学生には、ジオパークの「ジオ・エコ・ひと（大地・植物・人間の関連）」という理念を踏まえるよう指導し、学生は獣害と地域振興を結びつけた「肉まん」や、高校・ジオガイドと連携した「ジオパン」などに取り組み、持続可能な地域づくりに挑戦しました。COVID期にはVR観光や温泉健康×ジオツアーを実施し、その後は御汲み湯、水産、防災、御城印などへと展開しました。2022年以降は東部サテライトに着任された内山先生の専門分野・福祉の視点も加わり、防災×福祉やe-bike&おもしろ自転車の実践も生まれました。これらの取り組みはグローバル共創科学部のコラボラティブワークス（CW）へと引き継がれ、伊豆半島だけでなく静岡市や藤枝市、東京都内でも活動中です。伊豆半島ジオパークはサスティナビリティ学習のショーウィンドウとして重要であり、今後も東部サテライトと連携しながらグローバル共創科学部のコラボラティブワークスとして活動を続けていきます。

一般社団法人美しい伊豆創造センター　遠藤　大介 様

伊豆半島フィールドでは、ジオパークを活用した防災まち歩きやガイドさんたちとのツアー開発、福祉連携など幅広い活動に取り組んでいただきました。慣れない土地で知らない人と一緒にプロジェクトを進めるのは大変だったと思いますが、ひたむきにがんばる大学生の姿に、大人も負けてられないと思わされる場面がたくさんありました。e-bikeを活用したツアープロモーションや、SNSやラジオでの若者目線の発信など…私たちでは思いつかないアイディアで地域を盛り上げてくれました。

ジオサイト水晶山見学（2017年度）

三島市楽寿園での縄状溶岩の見学（2018年度）

柿崎弁天島の見学（2019年度）

東海工業株式会社の訪問。珪石鉱山の見学（2021年度）

集まれ！静大三余塾・FMラジオに出演（2022年度）

伊東の「漁業ワークショップ」（2022年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
伊豆半島ジオパーク・教育		
2017	ジオサイトを視察、ジオガイドへのインタビューおよびアンケート調査、分析、ワークショップ開催、大学SDGs ACTION！ AWARDSに参加	
	○小山眞人、山本隆太	I：矢ケ部五朗 A：森本和花、　S：岡部由佳、西郷慶亮、鈴木麻央
2018	SDGs肉まん開発、沼商×バンデロール×静大生によるジオパン開発・販売支援、郷土料理による教育を目指すための活動実施、大学SDGs ACTION！ AWARDSに参加	
	○小山眞人、山本隆太	M：中山理紗、　I：矢ケ部五朗、 A：森本和花、　S：岡部由佳、西郷慶亮、鈴木麻央、内村仁志、神谷拓実
2019	ジオパークのジオサイトを撮影し、VR化するプロジェクト『VR LEARNING LAB』の取組み、「静大生が考えるジオパーク入門ツアー」の実施、食からジオパークを知ってもらい、地域の持続可能性を考える「食×SDGsワークショップ」の実施	
	○小山眞人、山本隆太	M：中山理紗、北嶋泰成、　I：矢ケ部五朗、西郷慶亮 A：森本和花、　S：岡部由佳、鈴木麻央、内村仁志、神谷拓実、永井結登
2020	コロナ禍における伊豆半島の現状の調査や課題についてヒアリングを実施、上級生から１年生に向けたジオガイドツアー、現地ガイドとのオンラインツアー実施、e-bike、クアオルトなどスポーツ・健康分野での観光開発を検討	
	○山本隆太	M：北嶋泰成、中橋幸作、　E：青木奏磨 A：一瀬日南子、辻真衣子、　S：神谷拓実、永井結登
2021	雲見地区クアオルト健康ウォーキングイベントの実施、修善寺でビオトープ整備、伊東・熱海で防災町歩き、三島まち歩き教育イベント	
	○山本隆太、小山眞人	M：北嶋泰成、中橋幸作、勝浦寿、綿引駿、　E：青木奏磨 A：一瀬日南子、辻真衣子、　S：永井結登、内山遣都、長沼善虎
2022	伊東の「漁業ワークショップ」、修善寺の「防災サイトの使い方」、中伊豆×焼津コラボの「静岡おくみゆプロジェクト」、伊豆・狩野城の「御城印」デザイン、オートクラフトIZUのおもしろ自転車イベントに参加	
	○山本隆太、小山眞人、内山智尋	M：中橋幸作、勝浦寿、綿引駿、杉山里桜、沼井俊人、　E：青木奏磨、福本奈穂 A：一瀬日南子、辻真衣子、　S：内山遣都、長沼善虎、森万穂里
伊豆半島全域（ジオパーク）　地域づくりとジオパーク　＊名称変更		
2023	e-bikeツアーガイドに従事、おもしろ自転車×ふらっと月ヶ瀬のイベント企画・実施・アンケート調査、中部EPO SDGs学生サミットに参加	
	○山本隆太、小山眞人、内山智尋	M：綿引駿、沼井俊人、　E：福本奈穂 S：内山遣都、長沼善虎、森万穂里
2024	ふらっと月ヶ瀬防災イベントの実施、インクルーシブ自転車を活用した高齢者介護予防教室の実施、スルガ銀行との協働「e-bikeを活用した伊豆市シティプロモーション」	
	○山本隆太、内山智尋	M：沼井俊人、　E：福本奈穂 S：森万穂里

「修善寺の森プロジェクト」修善寺の森・土留め作業（2023年度）

E-BIKEツアーに参加し、ジオサイトで学生が解説（2023年度）

インクルーシブ自転車を活用した介護予防教室（2024年度）

伊豆半島ジオパーク（保全と防災）(2017年度~2022年度)

伊豆半島ジオパークにおける環境保全と防災対策

（2017年度）伊豆半島ジオパーク資源の環境モニタリングと保全方策

これまでのフィールドワークを振り返って

2022年度 主担当教員　小山　眞人

ジオパークの環境保全に関しては、(１)野外での人間・生物活動のモニタリング装置の開発、ならびに（２)狩野川水系の水質調査に取り組みました。(１)では山道の荒廃や鹿による獣害が課題となる一方で、定量的・継続的なモニタリングが実現できていない点の解決を図るため、超音波センサーを用いた簡易かつ安価な装置開発を試みました。また、環境悪化の実態把握は河川水でも課題となっていたため、(２)では通常の水質検査法に加えて３次元励起蛍光マトリクス法を用いた高度な分析を実施しました。

防災対策に関しては、(３)「防災まち歩き」の実践と、そこで得られた知見をネット上で共有するシステムの開発、(４)コロナ禍を意識したオンラインジオツアーの開発と実践に取り組みました。(３)では地域独自の地形を成り立たせた自然現象を学ぶとともに、防災上の有用な情報や危険要素を抽出し、それらを各自のスマホから汎用地図サイト（eコミマップ）に入力して共有する仕組みを作りました。(４)では案内人となった学生が現地からネット中継し、在宅の参加者がそれを視聴しながら質疑応答も実施することで、地域の成り立ちや防災に関する知識を楽しみながら学ぶ方法を開発しました。

いずれも総合大学の専門性や技術力を活かしつつ、地域に有用な資産を残した取り組みであったと思います。これらを通じて得た知識や経験を糧に、卒業生たちが実際に社会の様々な分野で活躍しています。

ジオサイト水晶山見学（2017年度）

狩野川資料館で打ち合わせ（2018年度）

オンラインジオツアー（2021年度）

ジオサイト（沼ノ川北スコリア丘断面）を見学（2017年度）

堂ヶ島ジオサイトクルーズの様子（2019年度）

函南町塚本の狩野川での採水（2021年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2017	主要なジオサイトを視察、天城山稜線歩道を視察、環境負荷センサーの開発、トレイルランニング大会にてセンサーの実地試験の実施	
	○小山眞人、山本隆太	E：勝又壮平、上田啓瑚
2018	環境負荷センサーの開発、防災情報共有ウェブサイトの作成	
	○小山眞人、山本隆太	E：勝又壮平、上田啓瑚、福山めぐみ
2019	西伊豆町仁科地区および田子地区にて高校生、地域住民とeコミマップを用いたまち歩きと意見交換会を実施、田子地区で地域住民とｅコミマップ体験会実施	
	○小山眞人、山本隆太	I：西原悠人、　E：上田啓瑚、福山めぐみ
2020	浜松・浜名湖ジオパーク構想地域でのオンラインジオツアーの開発・実施（2回）	
	○小山眞人	I：西原悠人、　E：福山めぐみ、片川拓巳、木村瑠羽
2021	eコミマップを用いての西伊豆防災まち歩き、オンラインジオツアー実施、狩野川の水質調査	
	○小山眞人、山本隆太	I：西原悠人、　E：片川拓巳、木村瑠羽、吉田智美
2022	主に小学生を対象とした防災まち歩き、アンケート調査・分析、狩野川水系の水質調査	
	○小山眞人、山本隆太、内山智尋	E：片川拓巳、木村瑠羽、吉田智美

伊豆市修善寺での河川水の採水（2021年度）

袋井市湊の津波避難マウンド見学（2021年度）

環境負荷センサーの開発（2017年度）

学生が作成した防災情報共有サイトのトップページ（2018年度）

オンラインジオツアーの現地リハーサル（2021年度）

伊豆市大平付近の狩野川で採水（2022年度）

静岡大学
National University Corporation Shizuoka University

多世代の居場所づくり　（2020年度～）

多世代の居場所づくりと防災教育の実践

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　山本　崇記

コロナ禍で暗礁に乗り上げかけたフィールドワークの授業を救って頂いたのは、清水区小島の龍津寺でした。「子ども寺子屋」等の取り組みを継続し、コミュニティの中心として、中山間地域で際立った活躍をされていた同寺の勝野秀敏住職の多大なるご支援を頂き、地元を愛する小島地区の子どもたちと出会うことができました。龍津寺をベースに、小島小学校での多世代スポーツ大会や地域の居場所づくり52ゆめひろばの芝植えや芝イベント、そして、地域の文化財である史跡小島陣屋跡御殿の書院完成イベント等、様々な場で、まちづくりに関わらせて頂きました。特徴的だったのは、自主的に「寺子屋」に来ている静大・他大学のボランティア学生との関わりです。学環生も次第に、フィールドに深くコミットし、自主的な参画を図るようになりました。本来の「フィールドワーク」とはそのようなもののはずです。もう一つの特徴は、学環のクロージングを見据えて、グローバル共創科学部の学生とのコラボ授業の実施です。新しい状況にも果敢にチャレンジし、ワークを継続することができています。大学という教育機関が地域に関わる「重み」というものを痛感すべきケースとなりました。

龍津寺　勝野　秀敏 様

清水の片田舎、大好きなわが町小島に関わってくださったみなさま、ありがとうございました。「防災」をテーマに通学路を歩いたりクイズ大会を企画したりと、地域の特性と子どもたちに目線を合わせた活動はありがたかったです。「ニュースポーツ大会」も楽しかったですね。

時代の流れで、分業と委託が増えて「みんなごと」が減り、当事者意識と責任感が感じにくい世情になってきました。でも、どんな時代も「わかちあい」が幸せの種であることは間違いありません。「2.5人称の支え合い」を意識して、みなさんが住むそれぞれの町で、みんなの幸せのために素敵な環境を作り続けてくださいね。龍津寺でまた会いましょう。

龍津寺外観

防災クイズの様子（2021年度）

小島地区S型デイサービスで参与調査（2022年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2020	フィールドワークのあり方についての専門書を輪読し、これまでのフィールドワークの課題をふり返り、改善すべき点を確認、龍津寺へインタビュー調査、こども寺子屋への参加	
	○山本崇記、祝原豊、須藤智	I：大塚紗菜、竹村定朔、丹羽唯人、中村文、伴野紗雪、　E：遠藤爽、山口望、渡邊大翔 S：仲原凪歩
フィールド名、変更　県営住宅→多世代の居場所づくり		
2021	土曜子ども寺子屋に参加、龍津寺で防災○×クイズを実施、小島小学校で防災教室の実施	
	○山本崇記、須藤智、立花由美子	I：中村文、伴野紗雪、瀧川理越、吉田美空、　E：遠藤爽、山口望、渡邊大翔、木村絢 S：仲原凪歩
2022	小島文化財を守る会（陣屋の活用、見学会、イベントの実施、探訪ウォーキング）に参加、S型デイサービスに参加、多世代交流ニュースポーツ大会の実施	
	○立花由美子、須藤智、山本崇記、吉川真理	I：瀧川理越、吉田美空、川原綾花、菊地凜太朗 E：山口望、渡邊大翔、木村絢、占部暖花、沼崎沙耶
2023	ゆめひろばでの活動（芝植え、芝開き）、龍津寺での継続的な活動（「子ども寺子屋」「小島ほうもう舎」）に参加、子どもたちにSDGsにつて楽しく知ってもらうことを目的とした「SDGsイベント」実施	
	○山本崇記、吉川真理、須藤智、立花由美子	I：瀧川理越、吉田美空、川原綾花、菊地凜太朗 E：木村絢、占部暖花、沼崎沙耶
2024	龍津寺住職との懇談会開催、土曜子ども寺子屋に参加および地域散策、清水小島小学校での奉仕活動参加、小島小学校150周年記念式典展示見学、秋のゆめひろば祭り開催、小島陣屋跡　御殿の書院完成記念イベント参加	
	○山本崇記、吉川真理、須藤智、立花由美子	I：川原綾花、菊地凜太朗 E：占部暖花、沼崎沙耶

防災教室（防災まち歩き）の様子（2021年度）

龍津寺・インタビュー中の様子（2020年度）

ほうもう舎での食事の様子（2023年度）

寺子屋の様子（2020年度）

静岡大学
National University Corporation Shizuoka University

学内地域連携拠点（2018年～2023年度）

静大発　地域と大学の連携を広めよう！

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　川﨑　和也

学内地域連携拠点フィールドは、2018年度より活動を開始したフィールドです。その活動の目的は、「つなぐ」を合言葉にして、「地域と大学の接点となる存在をめざす」ことにありました。具体的には、①静岡大学地域創造学環（以下、学環と記載）と地域を「つなぐ」、②学環のフィールド、ならびに学環の学生同士を「つなぐ」ことです。

学内地域連携拠点フィールドは、学環で活動する他のフィールドとは大きく異なる特徴があります。それは、学内地域連携拠点フィールドには、活動のための特定のフィールドやカウンターパートがないということです。これについては、「不安」や「物足りなさ」を感じていた学生がいたことも事実です。しかしながら、学生たちは、多くの方々の理解と協力のもとで、「とうもんの里フィールド」(掛川市)、「多世代の居場所づくりフィールド」(静岡市清水区)、「清水港フィールド」(静岡市清水区）のほか、静岡大学東部サテライトキャンパス（伊豆市）などを訪れて、取材をさせていただく機会を得ました。そして、学生たちは、取材に訪れたフィールドの活動内容を紹介する記事『フィールドワーク紀行』の連載を始めることができました。この他にも、自分たちで「フィールドワーク交流会」を企画し、学環のフィールド同士の情報共有・意見交換のための場づくりに尽力したり、学環のホームページの改定にもチャレンジしました。

こうした活動を通じて、学生たちは、学生と地域が「つながる」ことの大切さを認識し、学生と地域の懸け橋としての自らの役割とその意義を見出してきました。ここでの学びは、学生たちにとってかけがえのない貴重な経験であったと思います。

大正大学地域創生学部への訪問・調査・交流（2018年度）

大学会館でアンケート調査（2019年度）

オープンキャンパスでの展示企画実施（2019年度）

とうもんの里フィールドの取材（2020年度）

清水港フィールドの取材（2022年度）

伊豆市の訪問取材（2023年度）

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2018	地域創造学環の広報活動に向けて、大正大学・地域創生学部との交流・視察、学環のフィールドワークに同行し取材・発信	
	○皆田潔、岸本道明	M：伊澤功多、鈴木沙雪、古田萌黄 A：坂口律子
2019	地域創造学環ホームページの改訂、オープンキャンパスでのアンケート実施、学環入試広報委員会でのプレゼンテーション、オープンキャンパスでの地域創造学環PR（展示）	
	○皆田潔、岸本道明	M：伊澤功多、鈴木沙雪、古田萌黄、　田崎碧 A：坂口律子、　内柴麻衣
2020	全国の大学のホームページの調査、フィールドワークの取材（とうもんの里）活動紹介記事の作成、各フィールドの代表者を集めて行う交流会の企画	
	○川﨑和也	M：伊澤功多、鈴木沙雪、古田萌黄、　田崎碧、　太田そよ香、納壱成、　I：油井柊斗 A：坂口律子、　内柴麻衣
2021	フィールドワークの取材（御前崎市フィールド、多世代の居場所づくりフィールド）、学環の学生同士、意見交換を行う「フィールドワーク交流会」の企画	
	○川﨑和也、山本崇記	M：田崎碧、　太田そよ香、納壱成、　I：油井柊斗、　古瀬愛優美 A：内柴麻衣、　馬場凜桜、　S：金子涼太朗、近藤優介
2022	清水港周辺地域フィールド・フィールドワーク活動の取材、フィールドワーク交流会の開催	
	○川﨑和也、山本崇記	M：太田そよ香、納壱成、　I：油井柊斗、　古瀬愛優美 A：馬場凜桜、　S：金子涼太朗、近藤優介
2023	伊豆市訪問・取材、FMISの出演および活動紹介記事の作成、清水港周辺地域フィールド・フィールドワーク活動の取材	
	○川﨑和也、山本崇記	I：古瀬愛優美 A：馬場凜桜、　S：金子涼太朗、近藤優介

学生が作成した冊子「フィールドワーク紀行」

静岡大学
National University Corporation Shizuoka University

静岡市　東静岡駅前　（2016年～2018年度）

アート・スポーツの視点から取り組み地域振興

これまでのフィールドワークを振り返って

2024年度 主担当教員　祝原　豊

このフィールドは「めぐるりアート静岡」の「東静岡アート＆スポーツ／ヒロバ」プロジェクトとして、駅前の芝生広場を活用し、アートとスポーツを身近に感じられる場として展開されました。地域活性化を目的に、屋外で触れられるアート展示や、国内有数の全天候型ローラースポーツ施設を備えた環境のもと、毎年アートとスポーツの融合イベントを開催し、にぎわいを創出しました。

学生も地域での意見交換や調査、イベント企画段階から参加し、地域課題に即した独自の取り組みを行いました。このエリアは幅広い年齢層が訪れるため、集客ターゲットの選定や手法の検討など、多くの学びと経験を得ました。一方で今後の課題として、広場全体でのさらなるにぎわい創出や、変化する地域ニーズへの柔軟な対応、継続的な運営体制づくりが挙げられました。

３年間の取り組みを通じ、行政をはじめ多くの方々から支援と助言を受け、試行錯誤を重ねながら多様な仕掛けを実施しました。その結果、訪れる人々の交流が生まれ、地域経済の活性化にも少ないながら貢献できたと考えています。今後も形を変えながら、この場所が人々に親しまれ、にぎわいの中心であり続けることを願っています。

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2016	めぐるりアート静岡の全会場を鑑賞、ワークショップ・ギャラリートークへの参加、 東静岡駅前ヒロバを担当する市の担当者の方と顔合わせ	
	○名倉達了、白井嘉尚、祝原豊	M：伊藤純平、望月涼介、 A：黒田亜沙未、白鳥日和子、鈴木夏帆、唐坂梨紗子、萩原亜美、橋本直英、平田あかり、　S：加藤鉄平、塩崎陽也
2017	地域についての学び、イベントの企画・運営についての学び、 東静岡アート＆スポーツ/ヒロバでのイベント開催	
	○名倉達了、白井嘉尚、芳賀正之、祝原豊、川原崎知洋	M：望月涼介、 A：伊藤純平、黒田亜沙未、白鳥日和子、鈴木夏帆、唐坂梨紗子、萩原亜美、橋本直英、平田あかり、長澤由奈、柚木真里奈 S：塩崎陽也、内村仁志、沼田浩範
2018	東静岡アート＆スポーツ/ヒロバ１周年記念イベントの参加・補助、ディスコン大会への参加、 ニュースポーツ体験会・広報用チラシ・配布シール作成、当日のイベントの企画・参画	
	○祝原豊、白井嘉尚、芳賀正之、川原崎知洋、名倉達了	A：伊藤純平、黒田亜沙未、白鳥日和子、鈴木夏帆、唐坂梨紗子、萩原亜美、橋本直英、平田あかり

静岡市美術館での打合せ（2016年度）

ノルディックウォークの実施（2017年度）

東静岡アート&スポーツヒロバでのイベント運営（2018年度）

静岡市　駒形通り四丁目商店街（2016年～2020年度）

駒形四丁目商店街のにぎわい創出

これまでのフィールドワークを振り返って

2020年度 主担当教員　井原　麗奈

駒形通り４丁目商店街の会議に参加させていただいたり、お店を１軒ずつ回ってお話を聞かせて頂いたり、お客さんとして商店街を訪れた時には知り得なかったことをたくさん教えて頂きました。商店街の抱える問題はすぐに解決できるものではありませんでしたが、店主さんの似顔絵を描いて作成した地図を配布したり、参加者に写真を撮影して頂いてプリントして展示するイベントを開催したりする活動を通じて、「良いものが手軽な値段で売られている」「お喋り好きな店主さんが多い」「素敵な風景がある」など、商店街やそこで生活する方々の多くの魅力に気づくことができました。そして、それらを発信していこうという前向きな気持ちで地域の方々と協働できたと思います。商店街の皆さんが学生たちとの関わりを楽しんでくださっていただけでなく、学生たちもまた商店街を訪れることを楽しんでおりました。私たちを受け入れてくださった皆様に心からお礼を申し上げます。

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2016	駒形通り商店街を訪問・調査、商店街の方々との意見・情報交換、商店街マップ制作のため各店舗で聞き取り調査	
	○與倉豊、伊藤文彦、髙橋智子	M：伊神翔央汰、 A：井口紗那、大澤七彩、　S：坂井宏輔、吉澤公史
2017	マップ制作のため商店街の情報集め（アンケート等）、マップのデザイン制作、静岡市内へのマップ配布、学生ブログの設立、商店街のぼり旗制作	
	○井原麗奈、伊藤文彦、髙橋智子	M：岡本怜音 A：井口紗那、大澤七彩、稲垣茉里
2018	参加者に商店街の中を散策してもらい、商店街の中で写真を撮ってもらうイベント「駒形パシャらっち」開催（２回）	
	○井原麗奈、伊藤文彦、髙橋智子	I：岡本敦、黒田千晴 A：井口紗那、大澤七彩、稲垣茉里
2019	学内での認知症サポーター養成講座の開催、駒形通四丁目商店街でのインタビュー調査、おまちバルの事前学習、当日の参加	
	○井原麗奈、伊藤文彦、髙橋智子	M：岡本怜音、　I：岡本敦、黒田千晴、出木美沙緒 A：稲垣茉里、渡邊紗也佳
2020	駒形通商店街の1丁目～5丁目までを総括する団体「コマカツ」が主催する例会への参加、静岡商業高校主催のごちそうマート駒形を見学、おまちバル見学（チラシの配布や学割フライヤーの作成）	
	○井原麗奈、平岡義和、伊藤文彦、髙橋智子	M：岡本怜音、武田小真智、中野萌、　I：岡本敦、黒田千晴、出木美沙緒 A：濱嶋ななみ、渡邊紗也佳、　S：西村実紗
フィールド名変更　駒形通り四丁目商店街→おまち		

写真イベントの様子（2018年度）

商店街でのインタビュー調査（2019年度）

学生が作成したのぼり旗（2017年度）

浜松市　木下恵介記念館　（2016年）

木下恵介記念館への若者誘致

これまでのフィールドワークを振り返って

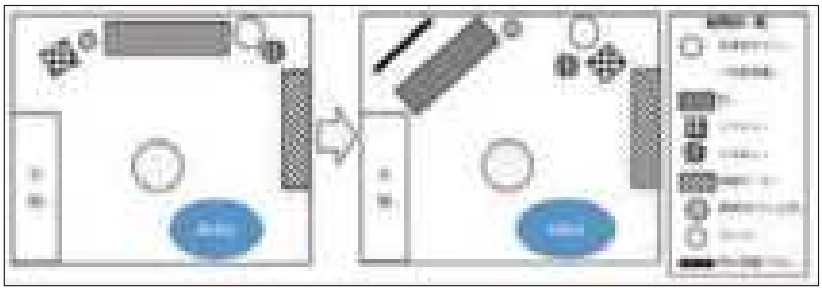
2016年度 主担当教員　井原　麗奈

　このフィールドは指定管理者の変更があり、初年度のみ開講したフィールドでした。ここで活動した学生は３人でしたが、展示室の展示替えや、映画音楽のコンサートのお手伝いを通じて、来館される地域の人々のこと、施設を運営する側の姿勢について考えるきっかけを得ることができ、好機に恵まれたと思います。木下恵介氏だけでなく、記念館（市指定有形文化財）を設計した中村與資平氏という地域に縁のある偉人の存在にも触れることができました。映画作品の持つ力や、技術の粋を集めた近代建築の居心地の良さは、現代では再現できないもので、良い学びの機会を与えていただきました。

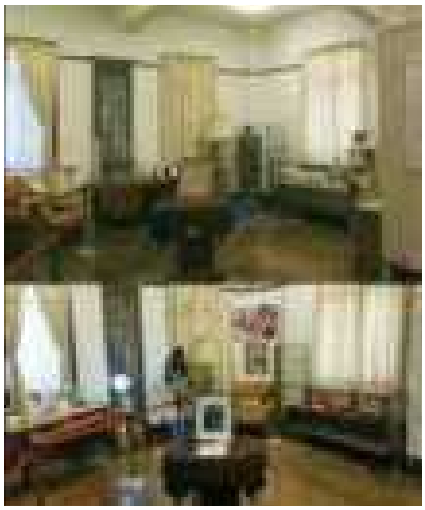
　この施設の現在の管理者には学環の卒業生がおります。別のフィールドで活動した学生ではありますが、地域への眼差しを大切にしながら施設運営を行っていると知り、フィールドワークでの学びの成果を活かそうと奮闘する姿に頼もしさを感じました。これからも地域に愛される施設であることを願っています。

木下恵介記念館の外観

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2016	第一展示室「書斎」の展示変更、展示物の入れ替え、展示方法の模索、 コンサートや映画鑑賞会の受付業務の手伝い	
	○井原麗奈、渡邊英理、袴田光康、與倉豊、祝原豊	I：西子幸裕、 A：橋本直英、　S：藤川智奈美



第一展示室「書斎」の展示変更



展示変更前(上）と後（下）の様子

川名ひよんどり　（2016年）

郷土伝統芸能の伝承／文化の保存と公開の技術

これまでのフィールドワークを振り返って

2016年度 主担当教員　平岡　義和

浜松市の北部に位置する川名地区は、「ひよんどり」と呼ばれる民俗芸能で知られた地域です。そこでのフィールドワークは、まず川名地域についてだけでなく、民俗芸能に対する理解をも深めることからはじまりました。そこで、地域の人に対する聞き取りとともに、民俗芸能に関する資料館やひよんどりの練習の見学などを行い、最後には民俗芸能フェスティバルの運営を手伝いました。学生たちは熱心にフィールドワークに取り組んだのですが、ひよんどり本番において学生たちが中心的な担い手となってほしいという地域の方々の思いとフィールドワークとしてできることの落差が大きく、学生が担当するフィールドを１つに絞るということの中で、わずか半年でフィールドを閉じざるを得ませんでした。事前のフィールドとのすり合わせが十分に行われなかったことで、地域の方々の期待に応えられず、大変申し訳ない思いが残りました。

川名の集落

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2016	浜松市役所にて浜松市の文化財の学習、寺野地域や横尾歌舞伎資料館などの視察、川名地域でひよんどりの練習見学、保存会・地域住民の方々への聞き取り調査、民族芸能フェスティバルのリハーサル見学・舞台準備の手伝い・アテンド業務	
	○平岡義和、袴田光康、河合学	I：大橋彩香、宮澤大己、　E：勝又壮平 A：白鳥日和子、　S：水野大貴

静岡県民俗芸能フェスティバルin浜松の手伝い

寺野のひよんどり・現地調査

県営団地　（2017年～2020年度）

県営住宅団地における居場所づくりと地域福祉資源のネットワーク

これまでのフィールドワークを振り返って

2020年度 主担当教員　山本　崇記

県営団地フィールドは、学環２期生とともに始まりました。福祉や共生に関わるフィールドがなかったため、県社会福祉協議会の協力を得て、県営団地での居場所づくりを目的にスタートしました。その中でも、自治会活動や子ども会活動が厳しく、集会所での健康体操の活動が細々と続いていた清水区の吉川団地に関わらせて頂くことになりました。当時は、環境・防災、アート、共生の学生がコラボし、それぞれの力を発揮して、高齢男性や子ども、外国人居住者向けの取り組み（地域防災講習、映画会、ハロウィン、戸別訪問等）を試みました。当初は繋がれなかった住民の方々にも集って頂ける居場所を様々に作ることができ、その自治機能をエンパワメントすることができたように思います。コロナ禍で関わりが中断してしまい、自治会役員の交替などもあり、関係形成の難しさを痛感しましたが、静岡市社会福祉協議会の協力も得て、同じ清水区の小島地区への関わりへと発展継承されていきました。

年度	主な活動	
	担当教員 ※○は責任教員	学生　M：地域経営、I：地域共生、E：地域環境・防災 A：アート＆マネジメント、S：スポーツプロモーション
2017	先進地（熱海・七尾団地、沼津・原団地、静岡市清水区・吉川団地）を視察、県営団地の現状を聞き取り調査	
	○山本崇記、祝原豊	E：遠藤爽、河村拓斗、櫻木哲朗 A：浦田紗季
2018	住民開催行事への参加（高齢者向けの介護予防体操・でん伝体操、おりがみの会、お花の会）、地域内外の方々との対話、学生企画イベントの実施（非常食試食会）	
	○山本崇記、祝原豊、須藤智	I：大塚紗菜、竹村定朔、丹羽唯人、　E：遠藤爽、河村拓斗、櫻木哲朗 A：浦田紗季
2019	団地×大学生を通じた居場所づくり／映画会、カラオケ大会の開催、子供向けイベント（ハロウィンパーティー、クリスマスパーティ）、しずおか自治取組発表会に参加	
	○山本崇記、祝原豊、須藤智	I：大塚紗菜、竹村定朔、丹羽唯人、中村文、伴野紗雪、　E：遠藤爽、河村拓斗、櫻木哲朗 A：浦田紗季、　S：仲原凪歩
※新型コロナウィルス感染症の影響を受け、県営団地へ足を運ぶことが困難となり、同じ清水区内でユニークな居場所づくりをしている小島地区の龍津寺に受け入れをお願いするとなる。		
2020	フィールドワークのあり方についての専門書を輪読し、これまでのフィールドワークの課題をふり返り、改善すべき点を確認、龍津寺へインタビュー調査、こども寺子屋への参加	
	○山本崇記、祝原豊、須藤智	I：大塚紗菜、竹村定朔、丹羽唯人、中村文、伴野紗雪、　E：遠藤爽、山口望、渡邊大翔 S：仲原凪歩
フィールド変更　県営住宅→多世代の居場所づくり		

県営団地ヒアリングの様子（2017年度）

でん伝体操・住民との交流（2018年度）

ハロウィーンイベント（2019年度）